

# 九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. **60**  
2008.11

九大  
至宝

九大筑紫地区  
埋蔵文化財



インタビュー・シリーズ九大人

**有川 節夫**    **古川 裕次**

第22代九州大学総長

株式会社ゆうちょ銀行 取締役兼代表執行役会長

ふろんとランナー

**小島 立**

法学研究院 准教授

九州大学は2011年に100周年を迎えます



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011  
知の新世紀を拓く

# 江戸ばなし

(四)

九州大学名誉教授

中野三敏

どうすれば和本リテラシーは回復出来るのか。それが今回の主題です。

実は私どもの父親の世代迄は、それは極く当り前の能力でした。日常の手紙や日記などに変体仮名や草書体漢字を混用するのは、その世代の人にとっては至極自然な営みでした。

また、その世代の人達が子供の頃慣れ親んだ小説や新聞記事は、わざわざ変体仮名や草書体漢字の活字を用いてありました。その方が遙かに読み易く、書き易かったからに他なりません。ために明治十二年、東京

平野（築地）活版所製造の活版様式にある仮名文字第四号表を掲出してみましよう。（図版）

ここにはいろは四十八文字分の変体仮名二百四十通りが表示されています。つまり、それだけの変体仮名活字が実用に供されていたわけですから、この名残りは、今でも街中のいろいろな所で見かけます。例えばすし屋やそば屋の看板や暖簾の文字、箸

袋、また歌舞伎や相撲の番組表、謡曲の稽古本に至っては、今でも全部変体仮名ではありませんか。つまり廿世紀が殆ど押しつまる頃迄は、日常、ごく見馴れた文字であったのが、その後一挙に終熄に向ったというのが実情なのです。ということはその回復も、今ならまだ遅くはない。我々のDNAの中には、まだ確かな手

憶えが残っているに違いないのです。要はその回復を果そうとい

う志を持ち得るか否かなのであり、それさえあれば方法は至って簡単です。百人一首でも奥の細道でも何でも良いので、その和本のコピーのページと、それと字配りや行数も全く同じにして、現行活字に翻字した一頁とを対応させた一冊の教科書があれば、それで十分でしょう。あとは繰り返しそれを読む根気さえあれば良いので、まさしく志の問題でありま

し。しよう。

その志は何によって生じるかとい

えば、それは偏にこれまでの近代のかたよりを何とか乗り越えようとする想い如何によるのではないでしょう

か。前回の繰り返しになります。活字化された古典というものは未成熟だったこれ迄の近代主義的選択眼を以て撰ばれた結果に過ぎません。和本の沃野は、その十倍、百倍の広がりがあります。その沃野に遊ぶ手段、つまり和本リテラシーを、自ら放棄して省みないのは、いかにも勿体ない話ではありませんか。

次回はその和本の沃野について、述べてみようと思います。



第四号

## 中野三敏 (なかのみつとし)

国文学者

一九三五年福岡市生まれ。六四年早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻修了。七二年九州大学文学部助教授、八二年同教授、九九年退職。九八年紫綬褒章受章。



巻頭エッセイ

江戸ばなし 名誉教授 中野三敏……………1

インタビュー・シリーズ九大人

第二十二代九州大学総長 有川節夫……………3

インタビュー・シリーズ九大人

株式会社ゆうちょ銀行 取締役兼代表執行役会長 古川 治次……………9

トピックス 1

九大コールアカデミー東京公演開催……………16

シリーズ研究・ふろんとランナー

法学研究院 准教授 小島立……………17

寄稿

見て、感じて、考える——科学的進歩のジレンマ 名誉教授 長崎外国語大学学長 池田紘一……………21

トピックス 2

□ S I A I D A Y 「高樹のぶ子と浸るモンゴル」開催……………22

伊都キャンパス施設探訪

航空低騒音風洞実験棟……………23

研究・産学連携の取り組み

□ オランダゲーム国際産学官連携の活動レポート……………25

躍動・学生たちの活躍

□ 九州大学鳥人間チーム……………27

ニュース

- 杉岡洋一元総長が瑞宝大綬章を受章……………29
- 九大と北大でフロンティア・セミナー初開催……………29
- 大学院統合新領域学府がスタート……………30
- 伊都祭2008……………31

同窓会の話

□ 関西同窓会がビアパーティを開催……………30

九大生が案内する世界のキャンパス

□ 香港中文大学……………33

ようこそ九州大学へ……………34

新聞で報道された九州大学

□ 平成二十年八月〜九月……………35

こんな本出しました

□ 健康と運動の疫学入門……………37

編集後記……………37

九大至宝 (表紙写真説明)……………38

「奴国の南——九州大学筑紫地区の埋蔵文化財」

□お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。

□投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不相当と思われる原稿は掲載しません。

■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■次号は、2009年1月発行予定です。



第二十二代九州大学総長

# 有川 節夫

ありかわ  
せつお

任期：平成二十年十月一日～  
平成二十六年九月三十日

平成二十年十月一日、九州大学の第二十二代総長に、有川節夫理事・副学長が就任しました。第二期の中期目標・中期計画、キャンパス移転、百周年記念事業といった波瀾の中を邁進する九州大学の舵取りを担う有川新総長に、応用力学研究所の伊藤早苗教授がお話を伺いました。



聞き手  
**伊藤 早苗**  
(いとう・さなえ)  
応用力学研究所  
教授

略歴	年月	職務
昭和三十九年三月		九州大学理学部卒業
昭和四十一年三月		九州大学大学院理学研究科修士課程修了
昭和四十一年四月		九州大学助手
昭和四十三年四月		京都大学助手
昭和四十四年十二月		九州大学助手
昭和四十五年二月		理学博士(九州大学)
昭和四十八年十二月		九州大学助教授
昭和五十二年六月		エンジンバラ大学訪問研究員(昭和五十三年三月)
昭和六十年	四月	九州大学教授
平成六年	四月	九州大学大型計算機センター長(平成八年三月)
平成十年	四月	九州大学附属図書館長(平成十六年三月)
平成十四年	四月	九州大学副学長
平成十六年	四月	国立大学法人九州大学理事
平成十七年	十一月	九州大学附属図書館長(平成二十年九月)
平成二十年	十月	国立大学法人九州大学総長
専門：情報科学		

**常に新しいものに  
取り組んできた研究者時代**

— 総長ご就任おめでとうござい  
ます。

有川 ありがとうございます。

— まずは先生の生い立ちについてお聞かせください。ご出身は鹿児島と伺っていますが、どのような生徒でしたか。

有川 父は高等学校の数学の教師でした。母も教師の経験があり、外から見ると、教育熱心だと思われるような家庭に育ちました。ただ、家は農業もやっていましたし、教育一家という感じではありませんでした。農業の手伝いをしながら勉強をしたという思い出があります。むしろ中学生の頃までは、「勉強は人前でするもんじゃない」と言われていました。学校できちんと習っているのに、なぜ家でまで勉強する必要があるのかというわけです。

— 九州大学理学部数学科を志望されたのは、お父様の影響でしょうか。

有川 数学科を選んだのは、入試の直前です。予備校の最後の模擬試験で数学と物理の得点が極めて高かったので、気持ちを变えたわけです。父の影響もあったかもしれませんが。

— 九州大学在学中に培ったこと、それから思い出になったことは何でしょうか。

有川 一年生の中頃までは、非常によく勉強しました。ただ寮生活をしていましたので、先輩達にいろいろなことを教わりまして、「大学は勉強ばかりするところではない」とも言われて、さぼることも少し覚えました(笑)。三年生になると、進学の基準が厳しかったこともあり、必死に勉強しました。四年生になると卒業研究に入るわけですが、教員と学生ができるだけマン・ツー・マンとなるような、他の学生があまり選ばないようなゼミを選びました。せっかく大学に入ったのだから、みっちりやらないとつまらないという思いがあったのです。当時は、数学の分類で言いますと、コンピ

ュータを使った解析をやっていたわけですが、一方で企業の現場で仕事をしたいという気持ちもありまして、四年生の夏前には大手の電機系メーカーから就職の内定をいただきました。そこで夏休みに東京に行き、四週間の実習を行ったのですが、そこで、これはもったいなく勉強しないと使いたいものにはならないなと感じて、大学院



への進学を決意しました。これからはコンピュータ・サイエンスの時代になるのだという予感があり、それからは、まだ誰もが読んでいないような英語で書かれたテキストを毎日読み、コンピュータ・サイエンスの基礎を徹底的にやりました。

— お話を聞くと、研究活動においては、常に先進的なものに取り組んでいらつしやうと感じます。

有川 修士を修了すると、九州大学の助手になり、京都大学やエジンバラ大学などでも研究活動を行いました。エジンバラ大学では、当時としては珍しい情報検索についての研究を行いました。エジンバラ大学は、当時人工知能の研究で有名でしたが、情報検索は人工知能の入口であり、この中にしっかりと位置付けたいと考えたものです。このように、私達の研究は、先駆者がいるわけではなく、指導者も含めて皆が手探りの状態でやってきました。言ってみれば先駆けの研究でして、いつも一歩先を走っているという意識がありました。

## 有川節夫新総長就任インタビュー



一番最初の学生をいかにしっかりと育てるかがポイントです。まさに命がけでやるべきことです。私もそうしてきました。結果としてそれが生きたのかもしれない。

### 理事・図書館長として

― 文部科学省の科学技術・学術審議会など、中央の重要な役職を数多く重ねてこられましたか、

「中央から見た九州大学」また「地方から見た中央」についてどのような感想をお持ちでしょうか、

有川 九州大学は、力の割にはアピールが足りないと感じています。表現の仕方がよくないのかもしれない。また中央で認められるために何をしなければいけないかという点でも、まだ少し甘いと思います。教授は皆、その分野では世界レベルにあります。それを世界のトップレベルにするために何をなすべきかを考えていかなければなりません。

― そのためにはどのような意識

を持つべきでしょうか。

有川 一人一人が高い志を持ち、新しい領域を切り開き、世界の拠点としての地位を築くのだという意識を持つことです。それから独創性を大切にし、自らこれを発揮するだけでなく、これを見分ける力を磨く必要があります。評価に関する独創性も重要だということです。

― これまで、新キャンパス担当理事として、斬新なアイデアと決断力を持って、工学系の移転や六本松の直接移転など、多くのことを実現してこられました。その秘訣は何でしょうか。

有川 キャンパス移転は、内外の多くの関係者が協力し、長い年月をかけて行うものです。私の力など些細なことです。一貫した、ぶれない姿勢を保つことは意識しました。

― 同じく図書館長として、九州大学の図書館を日本有数の図書館に育てられました。先生の図書館

た。国の機関などで使われているいくつかのシステムには、私の研究の成果が活かされています。

― 一方、これまで指導してこられた若手研究者の多くが、全国の主要大学の主要なポストで活躍されています。先生は、人の長所を見出し、これを伸ばすことの上手な、名伯楽であると思います。これまでの教育活動で力を入れてこられたことは何でしょうか。

有川 総合理工学研究科ができた時に、初めて大学院生を指導しました。総合理工学研究科は、基礎

となる学部がない大学院でしたので、自分の力で学生を集めてくる必要でした。いろいろなところから集まってきた学生達は、切磋琢磨し合い、結果的には彼らが研究室の基礎を作ってくれました。やはり、学生を信じるのが大切だと思います。総合理工学研究科の学生達がそうであったように、学生は最初は迷っています。これと

思うものを見つければどんどん力を発揮してきます。そうすると、その後輩達もその姿を見てよい刺激を受けます。そういう意味では、

世界第一級の教育・研究と診療活動を展開し、「アジアに開かれた世界の拠点大学」、「西日本を代表する基幹総合大学」、「都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学」を目指す。

に対する思いと、これからのあるべき図書館像についてお聞かせください。

**有川** 大学にとって図書館は基本中の基本だと思っています。これが活用されていないと大学は十分に機能しているとは言えません。私も若い頃は、図書館のスタッフに随分助けていただきました。九州大学の図書館の電子ジャーナルは、日本で最も整理されており、素晴らしい電子図書館となりました。これは私が図書館長になって大きく変わったところです。また、人文社会科学系の研究に必要な貴重な資料のための予算を確保し、その充実に努めました。一方、図書館には変わらない重要な機能もあります。自宅のパソコンでは得られない、深い知識を得ることができるということ。図書館で

勉強するという文化は、日本の大学ではまだ十分には根付いていません。学生には、是非図書館で勉強する喜びを感じてほしいと思います。また、図書館のスタッフにはますます専門性が要求されてきており、研究者が行う研究をテクニカルにサポートできるスタッフを養成していくことが必要だと考えております。今後はこのようなスタッフを置いている大学が伸びていくこととなるでしょう。

### 第二十二代総長として

— 総長選考のプロセスにおいて、多くの方から推薦を受けられました。

**有川** 当初は総長に就任しようとは全く考えていませんでした。総長選考のプロセスで、学内の極めてアクティブで優秀な先生方が私

を推薦してくださったことで、これはやらねばならないと決心しました。もちろん自分の母校である「九州大学を愛している」ことは大きな原動力でした。

— 新総長としての、目指す九州

大学像についてお聞かせください。

**有川** 教育憲章と学術憲章に則って、世界第一級の教育・研究と診療活動を展開し、「アジアに開かれた世界の拠点大学」、「西日本を代表する基幹総合大学」、「都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学」を目指します。歴史的、地理的にアジアとの関係は非常に深いわけで、アジアを重視した上で世界を見ていくことが必要です。また、西日本を代表する大学となることは当然のことです。それから、「都市と共に栄える」というのは新しい表現ですが、こ

れからの大学にとって必要なことです。現に、特に海外では大抵の都市には良い大学があり、都市と大学が共に発展しています。幸い九州大学の地元である福岡は、九州大学を誇りに思い、頼りにしてくれています。大学の方から都市や市民のことを考えていけば、都市や市民も大学を大切にしてくれると思います。また、九州大学は、法人化前から様々な改革に取り組んできており、こうした改革の方向を継承するとともに、部局の考え方が反映され、その力が十分に発揮されるように、ボトムアップとトップダウンの繰り返しによって大学をさらに活性化したいと考えています。その仕組みの一つとして、「役員・部局長懇談会」を開設し、双方向の情報交換も開始しました。

— 総長就任挨拶で五つの活動方針を示されましたが、そのうちの研究と教育について、もう少しお尋ねします。まず研究について、研究者の力を最大限引き出すための秘策は何でしょうか。

立派に巣立った学生が優秀な学生を引き寄せ、  
素晴らしい業績を挙げた教職員が優秀な教職員を引き寄せる  
「正のスパイラル」を作ることが発展に繋がる。

有川 学術憲章に述べられていま  
すとおり、個々の研究者には、知  
的好奇心と自由な発想を原動力に  
研究活動を行っていたことが  
基本であって、このことが、研究  
者が持っている力を最も引き出す  
ことになると思っています。また、  
各大学が同様に自由闊達な研究活  
動を活発化することで、国全体と  
して研究の多様性が生み出される  
こととなります。そういった研究  
活動の中で自ら頭角を現してきた  
研究者に対しては、公正で明確な  
評価基準に基づき、制度的・財政  
的な支援を行い、これをさらに伸  
ばしていきたいと考えています。  
また、現在政府が政策的に重点投  
資している分野がいくつかありま  
すが、自由闊達な研究の中から、  
次世代・次々世代に必要なもの

のを生み出すことも大学の役割で  
あり、このことも意識しておく必  
要があります。大学の研究活動の  
基本は基礎研究にあります。その  
重要性は今回のノーベル賞も物語  
っています。  
— 教育については、学生の能力  
を信じ、やる気を起こさせる教育  
を目指すと考えています。  
有川 よく「最近の若者は・・・」  
などと言われるますが、今の若者は  
優秀ですよ。ほとんど例外なく力  
を持っています。ただ彼らはその  
ことに十分には気付いていません。  
ですから「気付かせる教育」すな  
わち、学生に能力を持っているん  
だということに気付いてもらう教  
育を目指したいと考えています。  
能力を引き出すというよりも、能  
力の高さに気付いてもらうという

ことです。そうすれば、学生は主  
体的に勉強するようになります。  
学生を信頼し、押し上げてやるの  
です。これを是非先生方にお願  
したいし、図書館の整備をはじめ、  
そのための学内の環境整備を進め  
たいと思います。  
— キャンパス移転も重要なテ  
マです。先生が新キャンパス担当  
理事にご就任の頃だったと思いま  
すが、先生が学生に混じって新キ  
ャンパスで竹刈りをされているの  
を拝見し、大変感銘を受けました。  
移転の早期完了に向けての思いは  
誰よりもお強いと思いますが。  
有川 私にとっては特別なことを  
したという意識はありませんでし  
た。竹は一年間に半径十メートル  
の範囲に広がります。早めに伐採  
しておかないと林を占領してしま

います。現在六本松キャンパスの  
移転については目処がつかました  
が、伊都キャンパスでは、道路や  
駐車場問題等、実際に使ってみて  
初めて顕在化した課題もあります。  
これらの解決を急ぐとともに、国  
の財政事情にもよりますが、関係  
の方々の理解と支援を得て、でき  
るだけ早く移転を完了したいと思  
います。そして、伊都キャンパス  
を九州大学学術研究都市における  
知の拠点として発展させるととも  
に、キャンパスを市民に開かれた  
ものとし、市民が、学生や教職員  
と共に日常生活を知的に満喫でき  
る場になりたいと考えています。  
— もう一つ、大イベントである  
百周年記念事業成功に向けての思  
いをお聞かせください。  
有川 百周年記念事業は最重要課  
題の一つです。これから百年後の  
九州大学像を描き、そこに向かう  
道筋を定め、これに必要な事業を  
推進しなければならぬと考えて  
います。現在既にいろいろな取り



組みがなされていますが、キャンパス移転や病院の再開発とも関連付けて事業を展開したいと考えています。

― 病院といえば、先生の総長就任挨拶に、「世界第一級の教育・研究と診療活動を展開する」とありました。

有川 大学病院は、九州大学の重要な機能の一つです。大学病院は、財政的に大きな比重を占めるとともに、先進医療について責任を持っています。その一方で、経営についての効率化も求められています。このことについては具体的な課題意識を持っています。

― これまでにも増してお忙しい日々が続くと思われませんが、これ

ほどのお仕事を精力的にこなされる若さの秘訣は何でしょうか。また、実践しておられる健康法がありましたら教えてください。

有川 考え方が若いのもかもしれませんね。全てのことについて、これがゴールだと思えることがありません。研究にしてみても、ある現象について解決したとしても、それが最終だとは思えないのです。一つ解決しても、その次の山が既に見えているといった具合です。常にプロセスの中にあり、いつまでもたっても老成しません。あと健康法といえば、還暦を過ぎてからゴルフを始めました。研究の一線にいた時にはとてもそんな余裕はありませんでしたからね。

― 一件クールに見える先生ですが、実は人から頼まれると意気に感じる熱血漢ですよ。ご自身ではいかがですか。

有川 そうかもしれませんね。でもそうでなかったら研究者としてはやっていけませんし、こういう仕事もやれないと思います。

― 最後に、あらためて教職員・学生に対しメッセージをお願いします。

有川 自らの能力の高さを信じて、自信と誇りを持って、次の世代に残るような仕事をしてほしいと思います。そして立派に巣立った学生が優秀な学生を引き寄せ、素晴らしい業績を挙げた教職員が優秀な教職員を引き寄せるといった

- 一 自由闊達な研究活動を支援します。
- 二 気付かせる教育を目指します。
- 三 頼りにされる社会連携を実行します。
- 四 記憶に残る国際連携を実現させます。
- 五 元氣の出る大学の運営を心がけます。

「正のスパイラル」を作っていただいたいと思います。そうすれば九州大学は持続的に発展していくと信じています。

（このインタビューは、二〇〇八年十月二十一日（火）に箱崎キャンパスの総長室で行われました。）





ゆうちょ銀行本店にて撮影

株式会社ゆうちょ銀行 取締役兼代表執行役会長

# 古川 洽次

ふるかわ こうじ

今回ご登場いただくのは、ゆうちょ銀行取締役兼代表執行役会長の古川洽次氏です。古川氏は、三菱商事の経営改革、三菱自動車の再生を手がけられるなど、企業の最前線で活躍され、二〇〇七年には、巨大銀行であるゆうちょ銀行の完全民営化に向けた大改革を背負う取締役兼代表執行役会長に就任されました。本年三月に九州大学を卒業し、三菱商事に入社した田中和子さんが、OBであり、大先輩である古川氏にお話を伺いました。

聞き手

田中 和子

(たなか・かずこ)  
三菱商事株式会社  
炭素・LPG事業本部



古川会長の略歴

昭和十三年生まれ。

昭和三十七年 三月 九州大学法学部法律学科卒業

昭和三十七年 四月 三菱商事株式会社入社

平成四年 六月 同取締役業務担当役員補佐兼広報部長

平成五年 三月 同取締役人事部長

平成七年 六月 同常務取締役名古屋支社長

平成十一年 四月 同取締役副社長(経営計画、事業構造改革、CF

を担当)

平成十六年 六月 三菱自動車工業株式会社 取締役副会長(CSR

推進本部長)

平成十七年 六月 三菱商事株式会社常任顧問

平成十九年 十月 株式会社ゆうちょ銀行 取締役兼代表執行役会長

# 苦境に飛び込み、仲間を信頼し、正攻法で臨む

学校の井戸に落ちて、

九死に一生

竹馬の友の騎馬で登校した

思い出

— 東京生まれの鹿児島育ちと伺っておりますが。

古川 生まれは東京ですが、太平洋戦争の最中に、母の生まれ故郷である鹿児島県に疎開しました。父は戦死したため、小学校から九州大学に入学するまでの十四年間は鹿児島で過ごしたことになります。



戦地の父親に送るために撮ったものと思われる写真昭和19年頃撮影。右端が古川会長。

す。

— 幼少の頃の興味深いお話として、七年ほど前に日本経済新聞に寄稿された、井戸に落ちられた事件のエピソードを感慨深く読ませていただきました。

古川 小学校三年の時です。学校にあった井戸の縁に登って、滑車から外れた釣瓶（つるべ）つきのロープをもとに戻した途端、バランスを失っておよそ十メートル下の井戸の底に転落してしまいました。

た。井戸の底から見上げた丸い外の光景は、今でも時々夢に見ます。この時に左足を複雑骨折しまして、数日後母に背負われて登校したのですが、下校の時は級友たちが馬を組んで送ってくれたのです。それから約一カ月間、級友の騎馬で登下校したことは、終生忘れられない、宝物のような思い出です。田中さんは騎馬って組んだことありますか？

— 騎馬戦は見たことありますか。  
古川 私たちの小中学校時代の運動会では、騎馬戦はメインな競技種目の一つでした。当時は集団就職の時代で、級友のうち、家業を継いだ人以外は京阪神を中心に各地に散りました。でも、中学校の同窓会は続いていて、会うと皆遅く生きていますよ。

— 当時は大学まで行く人は少なかったのですか。

古川 私は身体が弱くて、家にいた時間は、祖父の本棚にあった講

談本を片っ端から読むなど、勉強は好きなほうでした。「大学には行くのは当然」、と子供の頃から決めていたように思います。小学校の同級生で大学まで行ったのは私一人ですし、今のようには誰もが行ける時代じゃありませんでした。今は多くの人が大学に行き、勉強したくない人でも勉強させられて面白くないんじゃないかな。どっちが幸せかわかりませんよね（笑）。

— 進学先として九州大学を選んだ理由は何だったのですか。

古川 ジャーナリストになりたいという希望もありましたが、就職のことを考えると法学部がよいのではないかと考えました。また、経済的に私学や遠隔地の大学は無理でしたので、旧帝大でもある九州大学を志願しました。

**学ぶことの楽しさを知った  
学生時代**

— どんな学生時代だったのですか。

古川 在学中は、学業とアルバイト

トに明け暮れ、遊ぶ時間は殆どなかったと思います。奨学金の支給を受けていましたが、生活のためもあって、教養部時代は職業安定所で紹介してもらったアルバイトをしていました。ところが、学部転じてからは勉強も忙しく、どうしようかと思っていましたところ、ろに飛び込んできたのが、当時の



生協が募集していた講義録の原稿書きの仕事です。当時は苦学生は珍しくなく、仕事で授業に出られない学生がたくさんいました。そういう学生に向けた講義録を、当時生協が一冊二百円程度で販売していたのです。九十分の講義をいつも最前列で聞き取り、これを原稿用紙に浄書し、できた原稿を生

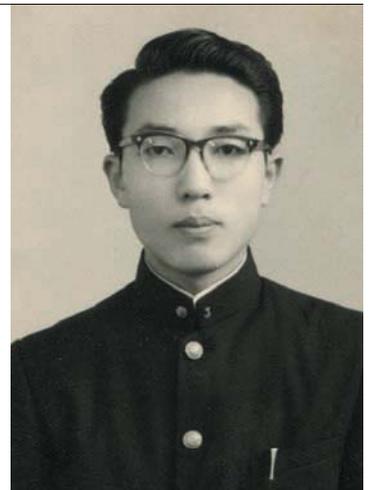
協に買い取ってもらうのです。今のようにレコーダーやコピーがない時代だから成り立ったビジネスモデルですね。必須科目の殆どを担当していたと思います。講義の中でわからない部分があると、図書館に行き、そこで必死に調べながら書きました。締切りが迫っている時には、当時六本松から箱崎まで通っていた西鉄電車の中でも書いたことを思い出します。当時の法学部の講義には、よく他学部の学生も聴講に来ていました。それぞれの学会の権威であり、スターでもあった先生方の講義を心弾ませながら聴講したのは懐かしい思い出です。原稿書きのお陰で、私の成績は優秀。先生が私の方を見て授業しているんだから当然ですよ（笑）。

— 今日はその当時の修学簿をお持ちいただいているのですが、本当に「優」ばかりですね。

古川 アルバイトで引き受け、必死になってやった講義録の原稿書きでしたが、これを通じて講義を何度も反芻するうちに、学問のお



科目	単位数	成績
憲法	1	35+10
民法	1	35+10



昭和36年、就職用に撮影。(写真右)  
当時の「修学簿」。(写真中央)  
当時の講義録の冊子。(写真左)

もしろさを掴むことができました。やはり学問は、ある程度やり込まないとそのおもしろさはわかってこないと思います。苦しくても、頑張つて、あるところまで登ることができれば、それまで見えなかったものが見えるようになり、きっと楽しさがわかるようになります。これまで知ることがなかったことは、最高の喜びだと思いますよ。今の学生さんにも、是非これを体験してほしいと思います。四年生の夏には就職が決まりましたので、その後、折から福岡市が国から委託を受けた板付基地周辺の米軍ジェット機による爆音調査の要員として、市役所総務部基地対策係の臨時職員になりました。現在、福岡市東京懇話会のメンバーの一員ですが、私は市役所OBのつもりで出席しています。

### 企業の改革・再編を手がけて

— 就職先に商社を選ばれたのはどうしてですか。

古川 ジャーナリストを志したこ

ともありましたが、四歳年上の兄が既に新聞記者になっていて、兄弟で同じ仕事ではない方がよいという、今にしてみれば家庭内資源のリスク分散ともいえる母の意見に従ったことになりました。官庁や製造業よりもサービスマンに興味があり、いくつかの採用試験を受けましたが、最初に内定を出してくれた三菱商事にお世話になることにしました。当時は、最初に内定を出してくれた会社に入ることが自然ではありましたが、国際的な舞台で仕事ができるかもしれないという夢と、漠然とした期待があったことは確かです。

— カナダ三菱も含めて、とても多くの部署を経験されていますね。

古川 三菱商事での最初の配属先は、思いもよらない営業会計部で、最初にやった仕事は、算盤を使つての、鉄鋼製品取引伝票のチェックと帳簿の消し込みばかりでした。初めて使う算盤はなかなか思うように動いてくれず、伝票の山はなかなか低くならず、低くなったと思つたらまた山のように積まれる

毎日で、途方に暮れました。見かねて時々助けてくれたベテランの女性社員が神様に見えたものです。その後は商社にあつては珍しく、いろいろなセクションを回り、殆ど全部の部署を経験しましたが、最初に経理を経験したことが、後になっていろんな点で役に立ちました。「経営は経理なり」とも言われているくらいです。会社で給料をもらった上に、経営の基礎を勉強できてありがたかつたと思います。必ずしも思い通りの仕事ではなくても、それに腐らないで真摯に取り組んでいれば、その中からきつと見出すものが出てきます。こういうことって誰の目の前にもあるんですが、嫌だと思つてすぐ逃げちゃうと、見逃してしまうのです。

— その中で、特に心に残っている出来事や出会いを挙げるとしたら何でしょう。

古川 総合商社は、生産設備や手段を直接持たないサービスマンとして、銀行のように保護や規制を直接受けていない業種であるため、

その存続についてはかねてから危機論がささやかれてきました。特に、私が経営企画を担当する社長室会事務局部長に就任した一九八六年当時は、プラザ合意を受けた円高デフレが進行中であり、大きな危機が訪れていました。この時は、会社の生き残りを賭けて、事業領域と機能の徹底的な見直し



昭和55年、カナダに駐在していた頃。明治生まれの母は着物で過ごすのが常で、カナディアンロッキーにもこの姿で訪ね、カナダ人に大いに珍しがられた。(古川会長談)

を行い、経営改革を実行しました。それ以来、会社は三年ごとの計画を立て、一歩先を睨んだ体質改善を続けています。このように、常に変化する経営環境の中では、企業は自らを変革し続けることができなければ生存競争には勝ち残れないのです。

― 二〇〇四年には、三菱自動車工業の再建を託されていらっしやいます。ご担当は、副会長として失墜した社会的信用を取り戻すための組織改革において要となるCSR（企業の社会的責任）推進本部長という役職ですね。

古川 実はその年、三菱商事の副社長を退任し、次の計画が決まっていた。しかしながら、当時三菱自動車の社員の子供がいじめに遭っているということの小耳にはさみ、経営のまずさでそのようなことが起こっているのなら、これは社員に大変申し訳ないと思っただけです。三菱自動車は欠陥自動車を作ったわけではありません。人間の作るものに百パーセントという安全性はなく、それをリカバ



― するためにリコールの制度があるのです。問題は経営陣がこの運用を誤ったことです。一連の不祥事は「経営人災」であり、マネジメントの問題であるという認識のもとに、私は徹底した企業風土の改善・改革に取り組みました。道半ばで三菱自動車を離れることにはなりましたが、現在の経営陣が当時の改革の道筋をしっかりと受け継いでくれており、それなりの成果が出ています。

― そして、ゆうちょ銀行の会長に就任されました。

古川 今度こそと着陸と思っただけ、また管制塔から上昇の指示を受けた感じ。寝耳に水のことであり、大変驚きました。すでに約束していた仕事もあったことからお断りするつもりでした。しかしながら、「最近の郵便局は窓口も集配もみんな一生懸命で親切だ」という声を聞くにつけ、ここ数年の国民的議論の渦の中で、黙々と日

々の仕事に取り組んでいる多くの郵便関係役員の方々のためにも、また貴重な財産を預けていただいている多くの皆様のためにも、これはやるしかないと思えました。現場が苦勞していると思うとムクムクとヤル気が動き始める性分なのです。よくもまあ、誰も二の足を踏むような役回りが回ってくるなあと感じながらも、「どうにもならない状況に飛び込み、これを何とかする」ことは人生の醍醐味だと思いい、受けて立つことにしたのです。

### 仲間を信頼し、正攻法で臨む

― これまで何度も難局に挑み、これを取り切ってこられました。難局に挑む際に組織や人に必要なことは何でしょうか。

古川 まずはチームワークです。一人の人間には二十四時間しかありません。ですから皆で智慧と労力を出し合うことです。一昔前の農作業と同じで、皆で心を合わせて一つの仕事をすることは、現代社会においても無駄ではないと思

います。三菱商事で経営企画を担当する部長だった時も、コピーをとって資料を作る時は皆でやりました。また、マネジメントが必要なのは、実際に現場で見聞きすること、部下や同僚を信頼すること、あきらめないこと、そして正攻法でいくことです。うまくやるテクニクなんかありませんし、秘密もありません。沈むなら皆と一緒に沈むという気持ちです。

― 現場主義について言えば、現職の就任前に全国の郵便局を訪問されたそうですね。

古川 自身、郵便貯金業務のこととは何も知らなかったのですが、先ずは現場の実態と第一線の人たちがどういう気持ちで働いているかを知りたいと思ったのです。民営化までの約一年間に、全国四十七都道府県にわたる百六十八の郵便局を訪ねて、三百人以上の局員から直接話を聞きました。勝手にわからなかった最初の数回は案内してもらいましたが、後は単独、私費、事前の予約なしだったので、さまざまな実態が見聞きできました。

今でも現場は私が一番知っている  
と豪語しています。それから、郵便の父と称される前島密の自叙伝「鴻爪痕」を探し出し通読しました。

― 世界的な金融危機など、今、

国際社会は大きく揺れています。これから日本を担っていく若者について感じていらっしゃること、期待することは何でしょう。

古川 多くの若者がしっかりとした考えを持っていますが、先人に



対談を終えた古川会長と田中さん。

習うということを少し軽く考えているのではないかと思います。近頃はインターネットの発達で、幅広い情報を簡単に手に入れることができるようになりました。けれども、これらの情報は、単なる知識であり、先人たちの経験が積み重ねられて醸成された知恵にはなっていないと思います。ビジネスの世界では何年かのサイクルで同じような誤りを繰り返しています。何をすることも自分で確かめ、先人に習い、そして歴史に学ぶという姿勢が大切ではないでしょうか。

― 最後に、大学への期待を込めたメッセージをお願いします。

古川 九州大学には地の利、歴史の利があるわけですから、アジアの大きなゲートウェイとなり、アジアの九大として成長してほしいと思います。その昔、この地からも遣唐使が旅立っているのですから。例えば、授業の半分くらいを英語、中国語、韓国語など外国語にすれば、アジアの人も九大に行きたいと思うのではないのでしょうか。それから、一般市民に開かれ

た大学になってほしいと思います。  
「門戸は開きつつ、流されず、そ  
して高く、遠くに行くことのでき  
る」存在であってほしいと思いま  
す。そうすれば、世の中の変化を  
必ずや先取りできますよ。学生の  
皆さんには、その中で何ができ

のかを自分で見出してほしいです  
ね。自分で見つけるのはロスもあ  
るでしょうが、ロスをどう捉える  
かもその人の器量です。

（このインタビューは、二〇〇八年十月十日  
に東京都千代田区丸の内「三菱クラブ」で  
行われました。）

何をするにも自分で確かめ、  
先人に習い、そして歴史に学ぶ



シリーズ 九大  
インタビュー



### 「ぼっけもん交遊抄 味の周辺」

古川会長と日本経団連前事務総長であ  
った故・和田龍幸氏をホストに、各界  
の多彩なゲストを迎えて行った「食を  
巡る」対談集。話題は食にとどまらず、  
日本の文化や伝統までわたり、古川会  
長の文化人としての一面を垣間みるこ  
とができる一冊。

なお、「ぼっけもん」とは鹿児島弁  
で「柿いもの知らず、向こう見ず」を  
意味する言葉。

かまくら春秋社刊2008年6月発行



知人から毎年送られてくる五島列島直送の「ひらまさ」を捌く直前。

# 研ぎ澄まされた音の美しさ、聴衆を魅了了！

## 「九大コールアカデミー東京公演開催」

九月二十八日（日）、九州大学男声合唱団コールアカデミー創立五十五周年記念東京公演が「すみだトリフォニーホール」（収容一、八〇〇名）で開催されました。九大を代表する文化サークルであるコールアカデミーの首都東京での演奏会であり、大学も後援し、東京同窓会も協賛しての盛大な催しとなりました。

「会場に行き、長蛇の列ができているのに驚きました。これ程の大ホールがほぼ満員になり、感心しました。」とOBの森重厚さん（三十四年経済卒）は述べておられます。本学からも多忙な中、梶山総長、柴田副学長（いずれも当時）をはじめ多くの方が上京され、熱心に聴き、拍手を贈られました。東京同窓会関連の方々をはじめ多くの同窓の皆さんが家族連れで来場され、中にはこの演奏会を同期会として楽しまれたグループもあり、まさに「九大ここにあり」という催しでした。

現在、コールアカデミーは約五十名の学生団員を数え、キャンパス移

転など課題を抱えながらもサークル活動の展開に頑張っています。十五年振り五回目の東京での今回の演奏会をひとつの目標に、新入生を含め合宿などで猛練習を積み上京しました。

一方、五十五年の歴史の中で、多くのOBメンバーは「生涯コールアカデミー」を合言葉に各地で合唱活動に携わっており、福岡、関東、関西にコールアカデミーOB合唱団も結成されています。これら全国のOBメンバー約一〇〇名がこの演奏会に参加しました。総勢一五〇名になるとういう大合唱のプログラムは次のとおりです。



三、四ステージを指揮の荒谷俊治さんは現在日本指揮者協会・会長として活躍中であり、荒谷さんが九大在学中に創設したのがこのコールアカデミーです。五十五年の歴史を経て、創設者が記念の指揮をしたのはギネス・ブツクの演奏会であつたと言われています。

九大フィルOBの太田進さん（横浜市在住）は「研ぎ澄まされた音の美しさに驚き、団員の皆さんの一糸乱れぬ真剣さに感動した一日でした。荒谷俊治さんの、音楽にひたむきで、愛情一杯な指導力の成果が、聴衆一人一人にも直接伝わって来ました。昔懐かしい藤井凡大さんの編曲の素晴らしさも再認識しました。場内に鳴り止まぬあんなにも暖かい拍手はめつたにありません。」と感想を述べておられます。



### 第一ステージ

現役学生ステージ（賛助・福岡OB合唱団リーダーフェライン）  
ロシアの歌（指揮：横田論 編曲：藤井凡大）

1st stage

### 第二ステージ

関東OB合唱団・TAGSステージ（賛助・関西OB合唱団NACHT）  
組曲「北原白秋」思ひ出 初演（指揮：作曲：宮崎誠二）

2nd stage

### 第三ステージ

現役学生&OB合同ステージ  
四本のホルンとともに（シューマン・シューベルトの作品から）  
（指揮：荒谷俊治 ホルン：井手詩朗ほか）

3rd stage

### 第四ステージ

現役学生&OB合同ステージ  
日本の男声合唱より（邦人作曲家作品集）  
（指揮：荒谷俊治 ピアノ：久邇之宣）

4th stage

FRONT  
RUNNER

シリーズ研究

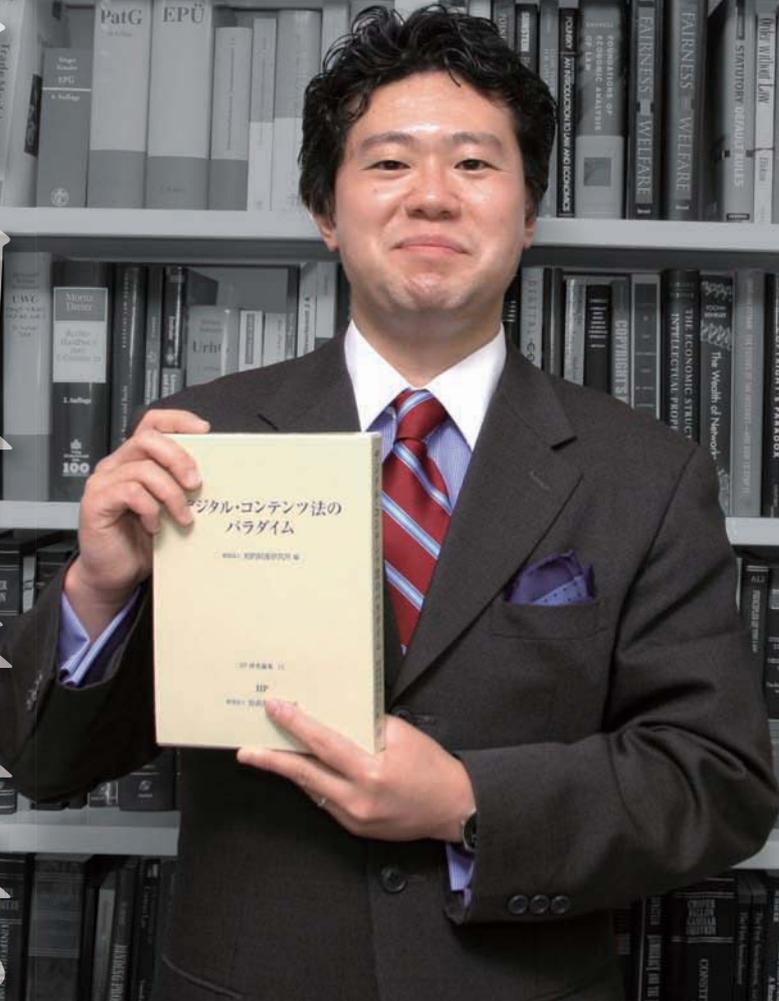
ふろんと  
ランナー

法学研究院  
准教授

小島立

こじま  
りゅう

# 知的財産法



「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第十一回目は、法学研究院の小島立准教授に歯学研究院の吉浦一紀教授が聞きます。

聞き手 歯学研究院 吉浦一紀 教授

英語プログラムという教育の場から、知的財産法の研究成果を世界に発信し、世界の人材と研究交流する

## 知的財産法とは

**小島** 実は六法全書を紐解いても「知的財産法」という名称の法律はどこにも登場しません。複数の法律の総称として「知的財産法」という名称が冠されているのです。一般的には、知的財産法には、特許法、実用新案法、意匠法、商標法、半導体チップ法（半導体レイアウトの保護）、種苗法（植物の新品種の保護）、著作権法、不正競争防止法（標識、営業秘密、商品形態、営業誹謗行為等の規整）等の法律が含まれるとされています。

**吉浦** 裾野の広い法律なのですね。

**小島** 知的財産の定義づけは一筋縄

ではいきません。そこで、現在の一般的な理解を参照したいと思います。

（\*1）それによると、知的財産とは、「不当な模倣から守られている情報」であり、知的財産法とはかかる情報の規整を担当する法律であるということです。興味深いのは、「不当な模倣」という言葉遣いです。  
**吉浦** 「正当な模倣」もあるのですか。

**小島** そうです。この定義からは「正当な模倣」と「不当な模倣」の二種類が存在するということが明らかになります。そこで「模倣」とは何か、社会的にいかなる意義を有す

（\*1）中山信弘『マルチメディアと著作権』（岩波新書、一九九六年）二頁。

VOL  
11

るのか、という点を考察しなければならぬこととなります。

**吉浦** 模倣は、人の真似をすること、最近では「パクる」と言ったりしますが、ニュアンスとしてあまり良い意味はなさそうですが。

**小島** ところが、歴史を振り返ってみると、人類は模倣によって発展してきたという疑いのない事実があります。いかなる卓越した芸術家も科学者も、先人の残してきた業績に接し、触発されて自己の業績を築き上げてきました。個人のみならず、企業でも国家でも同様です。模倣一般を禁止してしまつたら、産業においても芸術においても発展を期待することはできず、また、貧富の格差をはじめとする既存秩序が固定され、貧しい者は永久に貧しい生活を享受しなければならぬ。したがって、一般的には模倣は法的に自由であると考えるべきです。

**吉浦** 「学ぶ」という言葉も「真似る」から来ているということも聞いたことがあります。

**小島** しかしながら、全ての模倣を自由に行うことができるというのも妥当性を欠きます。他人の創作行為

や商業上の信用に、ただ乗りするのは常に合法としては、創作活動や商業活動への意欲を減退させるとともに、当事者間の衡平や市場秩序といった「公正」や「正義」の観点からも好ましくありません。従って、ある種の模倣行為を法的に禁圧する必要性が生じます。知的財産法はその線引きを行う役割を期待されている法律ということになります。

**吉浦** 私の属する歯学研究院での授業ではデジタルコンテンツをかなり取り扱っています。教育目的とはいえ、デジタルデータを使用する際に正当か不当かの判断にかなり悩ましい思いをすることがあるのです。小島先生は著作の中で、プログラムなど形のないものを「機能的著作物」と呼ばれています。著作権の解釈も複雑になっているのではないですか。

**小島** それについては二つの柱を立てて論じたいと思います。第一は、絵画や小説、音楽などの「古典的著作物」と、コンピュータプログラムのように何らかの機能を果たす「機能的著作物」の違いについてです。古典的著作物は人格の流出物で

あり、保護に疑いを容れる余地も少ないし、模倣の必然性も比較的少ないと言えます。一方、効率などの機能を追求するコンピュータプログラムなどは従来の判断方法でいいのか、ずっと議論されてきました。一九八〇年代、米国の外圧を契機に、日本でもプログラムが著作権法で保護されるに至りましたが、機能的著作物をいかなる判断基準で保護すべきなのかという体系に関する議論は現在も続いています。第二は、古典的著作物が書籍やCDなどの有体物に化体していたのに対し、デジタル化の進展により、情報自体が取引の対象とされてきたことによる問題です。インターネットによって情報が裸で取引されるようになり、著作権保護が難しくなったようですが、実はコピープロテクト等による技術的な保護手段も進化しています。先ほど吉浦先生が言われた教育目的での使用や個人的な複製も完全にコントロールできる状況が生まれているというこ

とです。

**吉浦** 容易にダウンロードできたとしても、法に抵触するのではないかと、途方にくれることがあります。注意すべきポイントはありますか。

**小島** 難しいご質問ですが、いくつかのポイントがあると思います。一つは著作権は特許や商標などの産業財産権と違い、創作によって直ちに権利が発生する無方式主義を採用しているのです。コンテンツを見ただけでは誰が創作に関わっているかわ



国際著作権法学会 (ALAI : Association Littéraire et Artistique Internationale) 報告 (2007年11月2日、ウルグアイ・プンタデルエステにて)

からないということ。特に自然科学

系では共同研究が一般的ですので、

最終的な権利者が誰かわからないケ

ースは注意すべきです。二つ目は著

作権の制限規定（著作権法三十条、

五十条）に注意を払っていただく必

要があると思います。一定の場合は

自由な利用を認めているのですが、

皆さんが思っておられる以上に、著

作権の制限は厳しいのです。米国著

作権法には複数の要素を総合衡量す

る公正利用（Fair Use）と

いうものがありますが、日本の著作

権法にはまだありません。教育目的

の使用では、私人人としては自由利

用を認めてよいと思うものの、日本

法として認めていない類型もあり、

注意されたほうがよいと思います。

## サイモン&ガーファンクルは

## 知財法に抵触したか

**吉浦** 米国のお話が出てきましたが、

小島先生は「文化審議会著作権分科  
会国際小委員会」の国際ルール形成  
ワーキングチーム員をされています。  
現状では著作権に関してどのような  
問題が生じており、それをどのよう  
に解決しようとしているのかを教え  
ていただけますか。

**小島** 今、対処を求められているの  
が、途上国からの法整備の要請です。  
途上国にある伝統的知識などは法的  
保護の網の目からこぼれ落ちてい  
るからです。例えば、サイモン&ガ  
ーファンクルの「コンドルは飛んでい  
く」という曲がありますね。あれは  
そもそもアンデス民謡なのですが、  
世界的にヒットしたことで、彼らは  
莫大な著作権収入を得ました。とこ  
ろが、アンデスの先住民には一銭も  
還元されていないのです。また、特  
許の領域では、途上国に伝統的に伝  
わる薬の作り方や遺伝子資源を先進  
国の製薬会社が勝手に取っていく  
「バイオパイラシー」が問題になっ  
ており、包括立法を作ろうという動  
きが出てきています。国際ルールと  
いう場合、先進国だけではなく、世  
界中で起きていることを広く見る必  
要があるということです。

**吉浦** ところで、国際的になるほど  
語学力は必須だと思えますが、先生  
は大学で英語教育に深く関わってい  
らっしゃいますね。

**小島** 大学院法学府には、全ての教  
育を英語で行う英語プログラム（\*  
2）があり、十四年の歴史を持っ  
ています。日本人の私が、ネイティブ  
スピーカーを含めた十数カ国の学生  
に英語で授業したり、修士・博士課  
程学生の論文指導を行ったりする  
のです。大変な困難を伴うチャレン  
ジではありますが（笑）。もともと、  
英語プログラムの教育方法は、留学  
生教育に閉じたものでなく、日本人  
学生にも応用可能と考えますし、現  
在博士課程には日本人も在籍してい

ます。このプログラムに携わってい  
てよかったと思うのは、興味のある  
論文を学生と読むなど教育と研究を  
結びつけやすい環境だということ。  
また、世界の研究者を招聘し、共同  
研究に発展していくケースもあり、  
私にとっては、国際的に活躍するた  
めの修行の場にもなっています。

**吉浦** 実は私はここ数年、歯学部  
の教育関係を担当しているのです。全  
課程でも発展させて、将来はディス  
カッションやインフォームドコンセ

（\*2）英語プログラム…大学院法学府は、一  
九九四年から授業・論文執筆の全てを英語で行  
う法学修士課程（L.L. M.）を日本で初めて  
スタートさせ、一九九九年からは同様の法学博  
士課程（L.L. D.）を開設しました。



聞き手：吉浦一紀教授



小島立准教授

ントに使えるよう、大学院を含めた十年一貫英語教育なプログラムを構築したいと考えています。

**小島** それは野心的なプログラムですね。

**吉浦** 九州大学から世界へ向けて発信し、また、各国から留学生が目指す大学になるためにも英語プログラム

の充実が教育の重点項目ですね。  
**小島** 日本の法学においても、「発信」ということへの注力が始まっています。日本の法学はしばしば輸入法学だという批判を受けます。これからは国際学会や条約交渉の場で、「日本としてはこうだ」と発信し、国際的に貢献していく機会を増

やしていかねばなりません。

### 関心の間口を幅広く

**吉浦** それは本当に様々な研究分野で求められていることですね。では最後に今後の展望と学生へのメッセージをいただけますか。

**小島** 最近、アメリカだけではなく、いろいろな国の知識を吸収して成長したいという思いが非常に強くなっています。英語圏でない国（特にドイツ）で自分をもう一度、鍛え直したいと考えています。日本の知的財産法学においては、どのような立法ないし解釈を行うかという探求に軸足を置くわけですが、国際的な舞台に

も積極的に出ていって、何らかの発信ができればという思いがあります。そのためにも著作権法やその周辺だけでなく、特許や商標、さらに文化政策などにも研究領域を広げていきたいです。知的財産法は、本当に

「何でもあり」の学問です。コレと絞ってしまうと面白くなくなり、思い切って奥深い森に入っていくと、大変だけど、それだけやり甲斐が生まれてくるのです。これは受験生や現役の学生にもまったく当てはまることで、早いうちから関心の間口を狭くしないほうがいいというのが私のアドバイスです。理系だから社会は一科目でいいとか、文系だから「数学よくわかんないや」（私も受験生の頃、そんなふうに考えていた時期がありました）ではなく、門前の小僧でいいから、「ここへ行けばこれがある」という土地勘のようなものを身に付けておくのです。「受験英語は役に立たない」と言われていますが、受験英語もできずして、国際的舞台で使える英語を話すことなどできないと私は強く思っています。つまり、学校での勉強に無駄な事はひとつもないということ。貪欲

に好奇心全開にいろいろなことにチャレンジしてみてください。



左より、聞き手の吉浦教授と小島准教授。

### 小島立准教授 プロフィール

一九七六年、福岡県中間市生まれ。中学校時代までを直方市で過ごす。二〇〇〇年、東京大学法学部第一類卒業。二〇〇〇年～二〇〇五年、東京大学大学院法学政治学研究科助手。二〇〇三年、ハーヴァード・ロースクール法学修士課程(LL.M.: Master of Laws)修了。二〇〇五年、九州大学大学院法学研究院助教授。二〇〇七年より現職。専門は知的財産法。

「自ら問題を発見し、自ら考え、自ら解決を見出す力」——その養成が急務であるとあらゆる教育論議、大学論議が悲鳴のように繰り返している。九州大学総長梶山千里氏も任期最後のインタビュー（九大広報五九号）で、

科学の創造性の基本は観察力・洞察力・展開力だと改めて強調している。梶山氏の発言は自然科学者としての経験に基づくものであるが、自然科学であるのが人文科学であろうが、事の本質は同じであろう。

ところでこのような嘆きというか警鐘というか、これは皮肉なことに近代科学が始まり、発展の度合いを強めていくにつれて、頻繁に見られるようになる。

錬金術哲学者H・クーンラートの一六〇九年出版の本に、夜のフクロウを描いた寓意画がある。フクロウは眼鏡をかけていて、二本の松明と二本の蠟燭が明々と燃えている。画の下に説明の文言が付されている。「人々が見ようとしないうちに、松明や灯りや眼鏡が何の役に立とう。」松明や灯りや眼鏡のところを「実験器具やコンピュータや万巻の書物」と言い換えてみたい誘惑に駆られる。

錬金術を科学的迷妄と言うなかれ。近代の化学と薬学は錬金術の実験室か

ら生まれたのだ。

十八世紀から十九世紀にかけて、器具や実験のもたらす結果を金科玉条とする科学の行き方に警鐘を鳴らした詩人にして自然科学者ゲーテはこう言っている。「人間それ自体が、その健全な五感を用いるかぎり、この世に存在しうる最も偉大で最も精巧な物理装置である。実験をいわば人間から切り離し、人工的器具の示すもののなかにしか自然を認識しようとしないうことこそ、近代物理学の最大の不幸に他ならない。」

——「自然は自然それ自体がわれわれに用立てている手段によって探求されなければならない。」その手段とはすなわち肉眼である。

ゲーテの光学の名著『色彩論』は「われとわが眼で見る」という方法から生まれた。ゲーテの科学的業績を詩人の夢想というなかれ。ハイゼンベルクをはじめ二十世紀の偉大な物理学者の多くがそのインパクトについて語っている。

では、書物はどうか。本をたくさん読めば創造性が涵養されるのか。グーテンベルクの金属活字と印刷プレス機の発明、活版印刷による書籍出版は、十八世紀に至って、書物の爆発的普及と読書熱、さらには新聞・雑誌などのジャーナリズムの隆盛をヨーロッパに

もたらした。それは今日のコンピュータに劣らぬ一大情報革命であった。この時代を生きたリヒテンベルクはこんな箴言を残している。

「非常に多くの本を読んだ人間で偉大な発見をする者は稀である。私がこう言うのは怠惰を弁護するためではない。というのも怠惰を弁護するためには事物を自分で入念に観察する必要があるからで、人の言うことに耳を傾ける以上にわれとわが眼で見なければならぬからだ。頭をはたらかせること！」——「驚嘆するほどの読書家がしばしば粗末な思索家であるという事実もまた、われわれの頭脳の性状に起因する。実際私

が、ある事柄を何の苦勞もなく学ぶのと、私が自分の力で、自分の思考秩序に従ってやつとそれに辿り着くのとでは大違いである。後の場合はすべては自分の内に根を持っているが、前の場合はただ外から貼り付けただけである。」

ちなみにリヒテンベルクはゲッティンゲン大学の講壇に立ったドイツ最初の物理学教授である。

二十世紀初頭のドイツの社会学者にして哲学者ゲオルク・ジンメルは、周知のように、哲学的思索の意義は何らかの内容的帰結を導き出して体系やドグマを打ち立てることにあるのではなく、むしろ思索のプロセス、精神の運

動そのものにこそあるのだと主張し、これを見事に実践してみせた人であるが、その著『哲学的文化』の序文の中で、いわばモットーとして、次のような寓話を例に引いている。

「ある農夫が死に際に子どもたちに向かつて、我が家の畑には宝が一つ埋められていると語る。これを聞いた子どもたちは父親の死後畑を隈なく掘り返すが、宝は見つからない。しかしその翌年には、こうしてよく耕された畑は、いつもの三倍の収穫をもたらした。」

「文化」cultureの原義はラテン語の「耕作」culturaだといわれる。ジンメルはその耕すという営為にこそ意味があるというのだ。今日その重要性が叫ばれている基礎学の「基礎」もまた、自然科学、人文科学の別を問わず、耕すこと、自ら額に汗し、自ら「見て、感じて、考える」ことをいうのである。

近代科学の発展と文明の便利は幾多の優れた発見をもたらしたが、同時にこのような基礎的営為を困難にもしてきた。先に見たいいくつかの証言はこの困難と問題性がいまに始まったことではないことを教えている。

## S I A - DAY 「高樹のぶ子と浸るモンゴル」開催



大草原の風にのそよぐ草花をイメージした舞台

九月二十日(土)、第六回S I A DAY (サイア・デイ) 「高樹のぶ子と浸るモンゴル」がアークロス福岡・円形ホールで開催されました。今回のテーマは「大草原と一本の口ソク」。大草原の風にそよぐ草花をイメージした会場は一七〇名の参加者で満員となりました。

S I A (Soaked in Asia) とは、九州大学アジア総合政策センター特任教授で作家の高樹のぶ子氏のインタビュータイプによるプロジェクトで、「作家の感性で現代アジアをつかみ取り、広く発信する」ことを狙いとするものです。

この日は、モンゴルの厳しい自然の中で生きる人々の暮らしや児童文学の魅力などについてのレクチャーや、高樹氏が現地の作家ジャンピン・ダシンドク氏や孤児院の子供たちとの交流などを通して感じた思いを写真と言葉によって表現したフオトデッセイ二編が紹介されました。また、ダシンドク氏の短編小説「男の三つのお話」より「第三話」

クダかつぎ」とそれに呼応した高樹氏の短編小説「モンゴリアン飛行」の朗読が行われたほか、休憩時間には「おやつS I A」として、ボールツオグ(揚げ菓子)やスーティー・チャイ(塩味のミルクティー)などが振る舞われました。S I A DAY終了後には、大学院共通教育科目の講義があり、大学院生との活発な討議が行われました。

参加者のアンケートには「今回の作家の言葉は『優しくて』分かりや



ジャンピン・ダシンドク氏と高樹のぶ子氏 (2008年6月モンゴルにて)

すい、子供の未来を思う気持ちの大切さを感じた」「心の運動能力を高める」というのはよい言葉、考えさせられる」などの感想が寄せられました。

朗読された二つの作品は、同時に発売された文芸誌『新潮』(十月号)にシリーズで掲載されており、フオトデッセイも『文藝春秋』に掲載される予定です。また、これらの映像や文章は、WEB S I A (<http://blog.goo.ne.jp/webstia>) を通じて発信されることになっています。

●第六回S I Aの様子は以下の番組で紹介されました。

十一月二日(日)

「ムーブ 高樹のぶ子を見たモンゴル」【RKB毎日放送】

◆このほか、九州のTBS系列でも放送されました。

●S I A DAYは年に二回企画されています。次回は平成二十一年三月十四日開催で、テーマは「タイ」の予定です。

建設が進む伊都新キャンパスの新施設を紹介するシリーズ

# 伊都キャンパス施設探訪

航空宇宙工学部門

## 航空 低騒音風洞 実験棟

「低騒音風洞」は箱崎キャンパスに設置されていたゲッチンゲン風洞（吹き出し口直径2mの回流風洞）、フラッター風洞（測定部1m×1m）の代替設備として、この二つの風洞を統合して航空宇宙工学部門低騒音風洞実験棟（EN60）に設置されたものです。このような実験設備を設置していただいた文部科学省、九州大学関係各位に感謝申し上げます。



低騒音風洞実験棟（EN60）の全景

エリア案内図  
Area Map



Welcome to  
ITO Campus

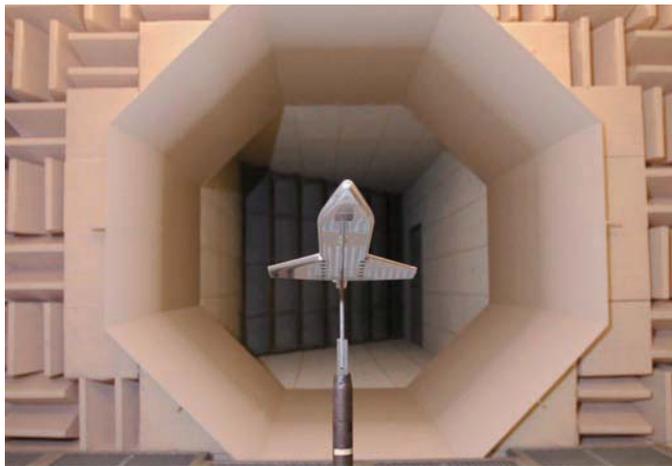


## 航空低騒音風洞実験棟 EN60

# EN60



第1測定部  
(上流側のノズル部。内側の正八角形の部分から気流が吹き出す)



第1測定部（下流側を見たところ）



第2測定部  
(下流側を見たところ。中心に軸流送風機が見える)

航空機や宇宙往還機の研究を行うためには、その機体周りの流れを調べたり、空気を測定したりする必要がありま。このため航空機や宇宙往還機の模型を気流の中に入れて実験をする装置が必要です。それが風洞です。低騒音風洞は、空気を循環させることによってエネルギーをできるだけムダにしないタイプの回流型低速風洞です。風洞は二つの測定部を持ち、第一測定部は、吹出口が正八角形（対辺の平行部の間が2m）の開放型の測定部であり、最大風速60m/sです。第二測定部は、3・5m×3・5m

の矩形断面の密閉型の測定部で、最大風速15m/sです。この第二測定部は縮流部（幅3・5m、高さ1・85m）を設けることにより、最大風速30m/sまで風速を上げることができます。第一測定部は、高い風速の実験が可能です。一方、第二測定部は比較的大きな模型の実験に適しており、縮流部の利用により、全幅が2mを越える無人機の実際の飛行条件に合わせた実験が可能となります。また、航空機が飛行する際には様々な騒音を発生させますが、機体の周りの流れによって生じる音（空力騒音）が問題

となっています。第一測定部では、風速40m/sにて暗騒音レベル（模型を入れないときの騒音のレベル）が65dB（A）以下になるように設計されており、航空機の低騒音化に向けた空力騒音に関する研究が行えるようになっていきます。今後、新キャンパスに設置された本施設を活用して、航空宇宙分野で最先端の研究及び教育を行っていきたく考えています。

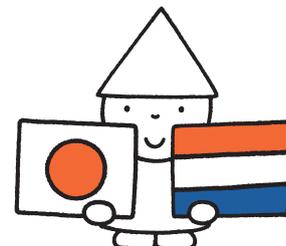
（文責…工学研究院航空宇宙工学部門 教授 麻生 茂）

# 研究

## 産学連携の 取り組み

## オランダゲーム 国際産学官連携の 活動レポート

日本オランダ年  
2008-2009  
www.nihonoranda.jp



これは「日本オランダ年2008-2009」を記念して描かれた  
オランダの絵本作家ディック・ブルナによるオリジナルイラストです。  
Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis bv, 1953-2008

日蘭友好400年を祝してデザインされた「親善大使」マスコットは、オランダ王国大使館より許諾をいただき掲載しております。

### はじめに

九州大学知的財産本部は、国際産学官連携センター (University Industry International Collaboration Center: 以下「UNICC」略記) を二〇〇七年七月に設置し、国際的な産学官連携の発展と高度化を目指す専門組織として活動中です。今回は、昨年度からの駐日大使館等の訪問を皮切りに活動を開始したオランダとの国際産学官連携の内容をご紹介します。

### 活動の概要

九州大学とオランダとの国際産学官連携は、UNICCスタッフの駐日オランダ王国大使館への訪問を契機にはじまりました。大使館の話では、日本の大学が産学官連携のために直接訪問するのは初めてということでした。訪問の折UNICCは、オランダが科学技術振興を含めた産業政策として、デザイン関連、特にゲームデザインやその産業を重点的に推進している現状を知り、同分野に関係の深い研究を行っている本学の芸術工学研究院の研究シーズ紹介を行いました。

このことをきっかけに本格化した、ゲームデザインを中心とする本学のオランダとの国際産学官連携と、UNICCのサポート活動の経緯については別表にあるとおりです。昨年十月に東京ゲームショウが開催された際、UNICCは大使館から紹介されたユトレヒト芸術大学 (Utrecht School of the Arts) と、本学との産学官連携の可能性について協議し、このことを契機にオランダとの国際産学官連携活動が具体化していききました。本年三月には、UNICCスタッフがオランダなど欧州地域の関連各機関を訪問し、本学芸術工学研究院を中心としたゲームやインタラクティブデザインなどの研究シーズを紹介し、このことがオランダのユトレヒト芸術大学と九州大学 (芸術工学研究院) との学術連携や、オランダゲームフェスティバルへの招待につながりました。

そして六月にUNICCは、オランダ・ユトレヒト市で開催されたNLGD主催 (※1) 「オランダゲームフェスティバル (Festival of Games 2008)」に招待され、デザイン分野を含めた本学の様々な研究シーズや、知財本部の連携サポート体制、そして福岡ゲーム産業との地域産学官連携の取り組み等について紹介しました。(写真1)

表1: 活動の経緯

2007年 9月	駐日オランダ王国大使館 (東京) へ訪問。
2007年 10月	オランダ産学官関係者 (ユトレヒト芸術大学 他) との面談。<東京ゲームショウにて>
2008年 3月	欧州諸都市へ芸術工学研究シーズ紹介訪問。(訪問国: オランダ・ドイツ・オーストリア)
2008年 6月	オランダゲームフェスティバル訪問。ゲストスピーカーとしてプレゼンテーション。(オランダ・ユトレヒト)
2008年 9月	芸術工学研究院主催公開講座「ゲームデザインを情報家電デザインに応用する方法の模索」参画。(東京・九大芸工東京サイト)
2008年 9月	ユトレヒト芸術大学と芸術工学研究院との学術交流協定締結。(福岡・九大太橋キャンパス)
2008年 10月	オランダゲーム関連の産学官関係者の九大芸術工学研究院、福岡県、福岡市、ゲーム企業サイバークネクトツエー訪問 (福岡)
2008年 10月	レーワルデン応用科学大学の九大病院リハビリ部訪問 (福岡・九大病院)
2008年 10月	オランダ産学官関係者との協議。<東京ゲームショウにて>
2008年 10月	アムステルダム応用科学大学、オランダゲーム企業の九大システム情報科学研究院訪問 (九大伊都キャンパス)

■九月、東京ミッドタウンでの「ゲームデザインを情報家電デザインに応用する方法の模索」と題する芸術工学研究院主催の公開講座に際し、UNICはユトレヒト芸術大学のゲーム研究センター長を招聘し、日本の家電企業との日蘭産学マッチングセミナーを開催しました。

■九月下旬、ユトレヒト芸術大学のアート&テクノロジー部門長が来福、本学芸術工学研究院との学術交流協定に調印し、UNICはその全体をコーディネートしました。(写真2)

■十月、オランダのユトレヒト地域とレーワルデン地域の産学官団体が、本学と福岡県、福岡市そして福岡ゲーム企業を訪問、UNICはその全行程のアレンジとサポートを行いました。(写真3、4、5)

■十月、アムステルダム応用科学大学のゲーム研究教育専攻長とゲーム企業が、本学システム情報科学研究院を訪問、UNICがアレンジとサポートを行いました。(写真6)

以上のようにUNICは、オランダのゲーム連携組織、ゲーム開発企業、大学等の研究機関と包括的に産学連携マッチングを行い、その一方で、本学の研究シーズを紹介して国際的な共同研究の可能性を探ったほか、日蘭の地域同士をつなぐ連携オルガナイザー



写真5



写真3



写真1



写真6



写真4



写真2

写真4：源田教授によるデジタル工房施設の紹介  
 写真5：九大病院リハビリ部（高杉講師）でのレーワルデン応用科学大学の研究紹介  
 写真6：岡田准教授研究室（システム情報科学）でのオランダゲーム企業との研究交流

写真1：オランダゲーフェスでのプレゼンテーション  
 写真2：ユトレヒト芸術大学と芸術工学研究院との学術協定調印式  
 写真3：柝原教授による環境適応研究実験施設の紹介

としての役割も果たし、オランダ側から高い評価を受けました。またUNICが紹介した、本学も参画する「ゲーム都市・福岡」を掲げる福岡ゲーム産業振興機構の活動は、ユトレヒト地域に類似する活動として共感を得ました。

**今後の取り組み**

一連の活動を通して、知的財産本部・UNICは、海外への本学研究シーズの紹介だけでなく、日蘭相互の多くの組織間を結び付ける吸引力となりました。また駐日オランダ王国大使館を窓口とした連携活動は、ゲーム開発研究のみならず、他分野（半導体やナノテク等）における連携の期待に広がっています。今後は、これまでの連携活動を継続的に展開することで、オランダとの国際的な産学官連携を促進し、具体的な成果の実現ならびに、本学の他の研究組織も巻き込んだ総合的な活動へと推進していきたいと考えています。

※1 N L G D・・・オランダゲームイベント事務局。広報活動だけでなくオランダゲーム企業を束ねる連携組織。  
 ※2 シリアスゲーム・・・オランダでは国策として、エンターテインメントゲーム（遊び）に限定せず、シリアスゲーム（eラーニング等の教育や災害・防衛・リハビリ用シミュレーション）に、遊びという付加価値をつけたもの）分野に対して重点的な助成金がついています。

# 躍動

## 学生たちの活躍

今回からスタートする「躍動」学生たちの活躍―では、サークル活動など学生たちの活動にスポットライトを当てて、紹介していきます。今回紹介するのは、空を飛ぶことを夢見る学生たちが集うサークル「九州大学鳥人間チーム」です。

## 九州大学 鳥人間チーム



### 鳥人間チームとは

鳥人間チームは、学部生と院生で構成しているサークルで、工学部機械航空工学科の学生が中心となっていますが、理学部や医学部などの学部生、院生も参加しています。現在メンバーは、学部一年生から修士課程二年生までの約三十名で、そのうち女性が三名加入しています。現在は九州大学の学生のみで構成されていますが、九州大学と九州芸術工科大学が統合する前には、九州芸術工科大学からも学生が参加していた時期があり、OBには宇宙飛行士の若田光一さん（大学院工学研究科一九八九年修了）がいます。

### 鳥人間コンテストに挑む

鳥人間チームは、読売テレビ放送株式会社が主催し、滋賀県の琵琶湖で行われる「鳥人間コンテスト選手権大会（以下「鳥人間コンテスト」）に出場することを目標に活動しています。鳥人間コンテストは、一九七七年に第一回大会が始まり、鳥人間チームは第四回大会（一九八〇年）の滑空機部門への初出場から第三十二回大会までの間に計二十七回出場（滑空機部門が中止となった大会などを含む）し、学生チームの中でも

かなり古くから参加しています。

これまでの出場で、第四回大会の二位、第十九回大会（一九九五年）のレディース部門優勝、奨励賞も複数回受賞、今年の大会も三四一・一四メートルを飛行し、第二位入賞するなど輝かしい成績を収めています。

### 活動スケジュール

鳥人間コンテストは、毎年七月下旬に行われますので、大会終了後から翌年の大会までの期間をどの様に活動するかが勝負となるため、自ずとスケジュールが固まっています。

鳥人間チームでは、大会終了後の八月から十二月までの期間、出場した結果判明した問題点を検討して、機体の改良・設計の見直しを行い、年明けの一月から次の大会に使用する機体の設計を始め、その後本格的な機体の制作に取りかかります。鳥人間コンテスト出場は、設計図などを提出し、書類選考を経てから決定されます。出場が決定し、機体の制作に入ると徹夜するメンバーも出るので、大会出場に向け盛り上がりが出ていきます。機体の仮組みを終えると、メンバー十名程度で機体を支えて、

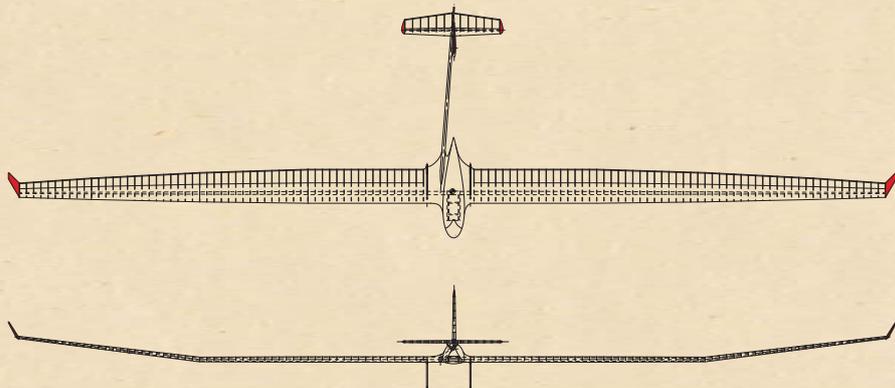
※九州大学と九州芸術工科大学は平成十五年十月に統合。



# QX-07

機体の諸元表	
機名	QX-07
翼幅	24.6m
全長	6.44m
主翼面積	19.1㎡
水平尾翼面積	1.39㎡
機体重量	36.5kgf

パイロット姿勢



使用する機体は、メンバーが交代しながらトラックを運転して会場まで運んでいきます。

会場到着後に機体を組み上げ、チェックを受けて最終調整に入りますが、本番直前のこの最終調整で思わずトラブルに見舞われることもありま。今年の大会では大きなトラブルはありませんでしたが、過去には飛行中の機体の姿勢を制御する尾翼部分がトラブルに見舞われ、応急処置を施して大会に臨んだこともありま。

## コンテスト本番直前

計算通りの浮力が得られるか、強度に問題はないかなどテスト飛行を数回実施して、完成を目指していきま。鳥人間チームの機体は、参加チームの中でも珍しい低翼機タイプです。低翼機タイプは、パイロットが機体を背中に担ぎ上げて助走を行う高翼機タイプと異なり、パイロットが腕で持ち上げながら助走を行うため、脚力に加えて腕力も必要です。パイロットは立候補制を取り、「体重が軽いことも重要ですが、それより本人の熱意を特に重視しています」と代表の新見征之さん（大学院工学府機械科学専攻修士一年）は語りま。

## 湖面上を飛ぶ、そして...

いよいよ本番。後はパイロットに託すだけです。助走距離は約六〜七mしかなく、勢いよくスタート台を飛び出すと同時にパイロットは機体の中に収まり、後は機体の姿勢制御に集中します。無事に湖面に着水すると、主催者側の救護班がパイロットと機体を回収します。鳥人間チームでは、機体の着水と同時に代表が交代し、新しい代表の初仕事は機体の回収作業となります。「このタイミングの交代は鳥人間チームならではかもしれません」と新見さんは笑って話します。

## 他にはこんなことも

鳥人間チームは、毎年秋に工学部の学生が中心となって開催する「サイエンスワールド」で大会に使用した機体と、学部一年生が製作する十分の一モデルの展示も行っています。サイエンスワールドは、日頃実験で使用する装置や研究内容を、パネル・実験器具・コンピュータグラフィックス等を使って、分かりやすく楽しく説明し、これから担う生徒児童に科学技術への関心を持ってもらおうとの趣旨で開催されているイベントです。

## 鳥人間チーム代表 新見征之さんへのインタビュー

Q..飛行機に興味を持ったのはなぜ？

A..高校の頃に鳥人間コンテストの放映を見て、自分もやってみたくなりました。九大を志望した動機の一つも、鳥人間チームがあり、大会にも出場していたからです。

Q..鳥人間コンテストの魅力は？

A..自分たちで全て手作りした機体が空を飛ぶことですね。目標に向かって、みんなが協力しながら機体も作っていきま。こんな楽しいことはないですね。

Q..機体の「QX」の意味は？

A..Qは九大をモジっていて、Xは試作機、まだ完成形ではないという意味です。

Q..将来の目標は？

A..飛行機関連の仕事とりたいところですが、原子力関連の施設で働きたいですね。色々と課題もある原子力ですが、それだけにやりがいがあると思っています。

Q..最後にメッセージをどうぞ。

A..鳥人間チームは、入部の条件は一切ありません。「先輩に厳しく、後輩に優しい」サークルですので、皆さんの入部をお待ちしています。

## 杉岡洋一元総長が瑞宝大綬章を受章

今年の秋の叙勲で、杉岡洋一元九州大学総長が瑞宝大綬章を受章され、十一月五日（水）皇居・宮殿「松の間」で行われた秋の叙勲の大綬章親授式で天皇陛下から勲章を授与されました。

今回の受章は杉岡元総長が九州大学総長等として多年にわたり、教育に尽力されたとともに、整形外科学の研究で優れた業績を挙げ、学術の発展に貢献されたことによるものです。

杉岡元総長から「今回の受章は、整形外科学教室入局後、総長退任までの四十二年間、様々な場面で私を支え、九州大学としての業績を挙げてくださった教職員皆様の右代表でいただいたもので、大変感謝いたしております。『強い九州大学』を掲げ総長に就任いたしました以降、幸運にも優れた矢田俊文副学長、柴田洋三郎副学長、総長補佐、各部長の方々、歴代の事務局長、職員の方々のお力で、その任を全うすることが出来ました。アジアに開かれた大学、世界の中核として、今後の一層のご発展を願っています。学生諸君には、無駄な学問は一つもないことを銘記し、専門領域以外の学問を自立的に広く学び、それによってserendipity、科学する心を養ってほしいと思います。過去の常識を覆すことで新たな発見が生まれる、科学の世界では『常識は非常識』です。過去を金科玉条とせず、昨日の自分にとどまるのではなく日々より良いものを求めて、世界を相手に努力を重ねてください。」とのメッセージが寄せられました。



## 九大と北大でフロンティア・セミナー初開催

平成二十年十月二十四日（金）、都内の品川プリンスホテルで「第一回北大・九大 合同フロンティア・セミナー」を開催しました。

九州大学と北海道大学は、それぞれの大学の活動状況を社会に発信する手段として、これまで合同で活動報告会を三回開催しています。

今回のフロンティア・セミナーは、従来から北海道大学が都内で開催していた同セミナーに九州大学が参画し、大学の活動に関する情報をより多くの方々に提供する機会として、共同で開催したものです。

当日のセミナーには一〇〇名を超す参加があり、北海道大学の岡田尚武理事・副学長と九州大学の村上敬宜理事・副学長の挨拶で始まり、活動紹介として、北海道大学から宮下和夫教授（大学院水産科学研究院）による「海藻油によるメタボリックシンドローム予防」が、九州大学から古川浩准教授（大学院システム情報科学研究院）による「真のユビキタス社会を実現するブロードバンド無線通信への挑戦」が報告されました。

質疑応答の時間には、海藻による予防効果や、無線通信の設置環境について活発な質疑が行われ、セミナーは大盛会のうちに終了しました。

今後、南北の知の拠点である九州大学と北海道大学は下記のイベントを東京にて開催します。

### 第4回「九州大学・北海道大学 合同活動報告会」

平成20年12月10日（水）13:30～  
都市センターホテル（東京都千代田区平河町2-4-1）

### 第2回「九大・北大 合同フロンティア・セミナー」

平成21年2月13日（金）17:30～  
東京ミッドタウン・デザインハブ  
インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター  
（東京都港区赤坂9-7-1）



古川准教授による研究紹介

挨拶を述べる村上理事

# 同窓会の話題

## 関西同窓会がビアパーティを開催

平成二十年十月七日（火）、関西地区及びその近隣在住の本学同窓生で組織する関西同窓会のビアパーティが、J R大阪駅前のホテルグランヴィア大阪で一〇〇名を超える同窓生らが参加して開催されました。

関西同窓会は今年六月二十五日に発足、今回が初めてのビアパーティ開催となりました。ビアパーティには、十月一日付けで総長に就任した有川節夫総長、落合英俊、水田祥代、渡辺浩志の各理事など大学関係者も出席し、同窓生との懇親を深めました。

ビアパーティは、荒巻禎一会長（財京都文化財団理事長、元京都府知事）の挨拶、有川総長の挨拶と大学の近況の報告の後、上野至大会長代行（西日本電信電話(株)相談役）の乾杯で始まりました。ビアパーティは、様々な年代の同窓生によるスピーチで盛り上がり、最後は同窓生全員による学生歌「松原に」などの大合唱で幕を閉じました。



写真左から、挨拶する荒巻会長、上野会長代行、最後は学生歌「松原に」を合唱

## 大学院統合新領域学府が平成二十一年四月にスタート

平成二十年十一月七日（金）に有川総長、高木誠福岡女子大学学長、武井俊詳西南学院大学副学長等出席のもと、平成二十一年四月に設置される新たな大学院「統合新領域学府」について記者発表を行いました。

「統合新領域学府」は、「ユーザー感性学専攻」と「オートモティブサイエンス専攻」の二つの専攻からなる大学院で、「ユーザー感性学専攻」は、知の活用主体であるユーザーの視点から、また感性を基盤として人間理解の上に立って、感性価値の創造を推進する高度な専門人材の養成を目的に、「オートモティブサイエンス専攻」は、オートモティブという視点から自動車と先端技術、自動車と人間や社会、自動車と環境・エネルギーなどの先端的で複合的な課題を統合的な仕組みに基づいて解明し、新しいオートモティブ社会を創造する高度な専門人材を養成することを目的としています。



写真：記者会見で握手をする（左から）高木福岡女子大学学長、有川総長、武井西南学院大学副学長

記者会見で有川総長は「統合新領域学府は現代社会や現代の科学に問われている課題から出発するところに特徴があり、従来の大学院とは全く異なる世界でも類を見ない新しい大学院。福岡女子大学や西南学院大学との連携、さらには企業や行政との連携のもと、高度な専門性と実践能力を備えた人材を育成、輩出していきたい。」と今後の方針を述べました。

# 伊都祭2008

きちやってんしゃい！伊都キャンパス  
地球を守れ！糸島環境サミット！



① 糸島環境サミットでは、5組の家族からの家庭で取り組んでいるエコライフの発表がありました。



① 糸島ひよつこ踊りがステージ外にも登場！

① フライトシミュレーターで空を飛んだ気分の小学生。将来は、空飛ぶパイロットかな？



① 露店に並ぶ行列を見て、圧倒されている実行委員。



① 火薬エンジン搭載の小型ロケット打ち上げ成功！子どもたちの大歓声があがりました。

今回、広報室で伊都祭を取材し、大勢の方にインタビューを試みました！

## 実行委員長からの一言



甲斐寿光  
伊都祭実行委員会委員長  
(工学部4年)

地域の皆さんと大学の関係者が協力した伊都祭。今回は六千人以上の方々の来場があり、大成功で自分自身も大変感動しています。今回、伊都祭の運営に携わることができ、地域の方々の温かさを十分すぎるほど感じました。来年は六本松キャンパスの移転も控えているので、もっともっと多くの学生に参加してもらいたいですね。



重富敢二郎  
伊都祭実行委員会  
副委員長

天気も良く、昨年より多くの方に参加いただきました。このように九大と地域が一体となって文化や歴史を発信していくことは、大変意義があることだと思います。参加いただいた皆さん、本当にありがとうございます。来年も期待してください。

次ページでは、参加された皆さんの声を紹介しています。

平成二十年十一月一日(土)、九州大学の教職員・学生と伊都キャンパス周辺住民、行政が一体となった大学と地域の魅力を発信するイベント「伊都祭2008『きちやってんしゃい！伊都キャンパス地球を守れ！糸島環境サミット』」が開催されました。伊都祭は、大学・学生・地域住民、自治体が交流・連携し、ともに発展するための関係づくりを行うことを目的とし、昨年より開催されています。

今年「環境」をテーマに、環境に関連したイベント・展示会をはじめ、学生が研究内容について分かりやすく説明する研究紹介やサイエンスワールドが行われ、来場した皆さんは本学の最先端の研究に触れていました。また、子どもを対象としたイベントも多く開催され、グラウンドで打ち上げられたロケットに歓声をあげたり、目を輝かせて科学実験に取り組み子どもたちの姿も多く見ることができました。

このほか、地域団体・福祉団体・学生による地域の特産品・食品・工芸品を扱った三十以上の露店や、地域団体・学生による伝統芸能・ダンス・音楽などの熱い演技が繰り広げられた特設ステージなどに大勢の人が集まり、日が沈むまで賑わいました。

今回の伊都祭は、六千人以上の来場者があり、昨年を大きく上回る大盛況でした。来年は、六本松地区が伊都キャンパスに移転することからも、さらなる盛り上がりが見込まれます。

一般参加者の声



九大生の保護者の方

今日は、娘が工学部の二年生に在学していることもあり、伊都祭を見に来ました。大学も町も少しずつ変わっているなという印象を持っています。今後、九大には、学生の就職支援や通学の交通手段を充実させてほしいですね。



地域住民の方

今日は、今宿から来ました。今年で二回目の伊都祭ですが、昨年より人も多く、賑わっている印象ですね。学生食堂で食事をしていましたが、低価格で大変満足しています。九大が伊都に来て、町も大きく発展しました。

地域と大学のステージ出演者のコメント

フラダンスで観衆を魅了した  
カ・フラ・オ・ウルラニの皆さん



今日はお客さんと一緒に踊ることができ、とても楽しかったです。普段は大橋のスタジオでレッスンをしている、いろんなイベントに参加しています。今回、実行委員会からの紹介で初めて伊都祭に参加しました。伊都キャンパスには初めて訪れましたが、周りは緑に囲まれ、校舎は広くて、学生さんが勉強するのは最高の環境ですね。

祇園ばやしで太鼓をたたいた村田善一さん



福岡市からの要請があれば、いろんなイベントに出演しています。今回の出演にあたっては十月三十日、三十一日の夜に集まってみっちり稽古しました。今年は昨年よりも多くの参加者がいらっしやいますね。このような地域と大学が一緒に盛り上がる場に参加できて、大変嬉しく思っています。今後是非参加したいですね。

ステージのトリを務めた「流（ながれ）」の皆さん



「よさこい踊り」という踊りを皆さんに披露させて頂きました。毎週土曜日に練習を行っていて、全部で三十名ほど在籍しています。メンバーは、社会人と学生が半分ずつです。「流」に在籍してから、人前になることが好きな性格になりました。活動範囲は広く、東京にも支部があります。新たなメンバーも募集しています。九大でのステージ最高でした。

今津人形芝居を演じた今津小学校三年生の元気な子どもたち



小学校三年生の課外活動の一環として、人形芝居をすることになりました。今回の芝居のために、毎週土曜日を使って一時間以上の猛特訓をしてきました。正座での芝居なので、足が痛くて大変です。それでも練習を続けたおかげで、地元のテレビにも映ることができました。九大は楽しいところですよ。芝居が終わったあと、たくさんの研究室を見て回りたいです。



# 九大生が案内する 世界のキャンパス

The Chinese University of Hong Kong

## 香港中文大学



中国

交換留学先

芸術工学部4年

竈 美和子 かまど みわこ

留学生の友人とカーニバルにて。

私が中文大学に訪れ、まず驚いたのは、キャンパスの美しさでした。中文大学のキャンパスは、香港の大学の中でも特別で、山そのものがキャンパスになっています。大変広いキャンパスのため、無料バスが運行しており、時間割をつくるときは教室移動の時間まで考えて組み立てる必要があります。山、といっても、キャンパス内には、スーパーや本屋、銀行もあり、生活に不自由はありません。さらに、大学駅という中文大学専用の駅もあるので、交通も便利で、隣の沙田という駅には、大きなショッピングモールがあり、買い物はそこで十分にできます。

中文大学では、中国語を初めて学びました。0からのスタートでしたが、初心者コースが用意されていたので、基礎からきちんと学ぶことができました。また、中文大学には、中国本土からの留学生も大勢いるので、友人から北京語を教えてもらったり、学んだものをすぐに実践してみたり、ということが日常生活でできました。

寮生活は、基本的に二人部屋です。最初に、留学生のみの寮か、地元の学生と同じ寮か、を選びます。私は後者を選び、香港の学生とルームシェアになりました。私は、広東語は全く分かりませんでしたでしたが、香港の学生は英語と広東語をしゃべれるので、苦労することはありませんでした。

留学を終えた今、本当にこの大学を選んでよかったと思っています。広く数多くの留学生を迎えている中文大学では、香港の学生だけでなく、様々な国の学生と出会うことができました。これも香港中文大学ならではの経験だったと思います。

## 大学情報

The Chinese University of Hong Kong

香港八大学のひとつで、タイムズ紙の二〇〇七年版世界大学ランキングで、第三十八位にランクインしている。六つのカレッジからなり、七つの学部を有する。中国語、英語などを学べる語学系の授業は大変充実している。特に中国語は、レベルわけもされており、自分にあつた授業を選べる。

中文大学の大きな特徴は、広東語か英語、もしくは両方で行う授業、という三つのタイプの授業があることだ。広東語ができない学生は、英語で行われる授業かどうかを確認した上で、履修しなければならない。また、図書館や食堂の数は香港トップで、図書館は一つ一つに特徴がある。例えば、United Collegeの図書館には、DVDが古いものから最新のものまで、豊富に貸し出しされており、学生は本を借りるようにDVDを借りることができる。

もう一つの特徴は、留学生の多さである。八〇〇名ほどの交換留学生をうけいれているため、大学側のケアもしっかりしている。香港ツアーなど、留学生のための企画も用意してくれるので、積極的に参加すると、様々な国の学生と交流できる。



キャンパスから見える景色。

## 在京タイ王国 大使館公使参事官



平成二十年十月八日(水)、ワリン・スックチャローン在京タイ王国大使館公使参事官(教育)が、水田理事を表敬訪問し、留学生の受入制度等について意見交換を行いました。

ワリン・スックチャローン参事官は、タイ王国人事委員会に永年勤務した後、昨年現職に就任、タイ王国を通して日本への留学を希望する学生へ情報提供を行うため全国の大学を訪問の折、九州大学の特色や独自の留学生受入制度について情報収集を行うため来学されました。

## 中国人民大学国際交流処長

平成二十年十月十五日(水)、唐忠中国人民大学国際交流処長が、水田理事及び今泉理事を表敬訪問しました。

唐忠中国人民大学国際交流処長は今年六月にも来学されていますが、今回、日中学術シンポジウム(東アジアにおける食料の安全性と農業環境資源リスク)に出席の折、水田理事と今泉理事を訪れ、今後の学術交流等について活発な意見交換を行いました。

また、同席した宋敏九州大学北京事務所所長から、北京事務所の活動状況等について説明がありました。



welcome to Kyushu University

## ようこそ九州大学へ

グローバルCOEプログラム

### 「新炭素資源学」研究者一行

平成二十年十月二十六日(日)に開催されたグローバルCOEプログラム「新炭素資源学」第一回国際シンポジウムに出席の折、十月二十七日(月)、中国人民共和国上海交通大學付彦卿環境科学工學研究院院長を始め韓国エネルギー研究院、インドネシア・バンドン工科大学並びにオーストラリア・モナシユ大学の研究者一行が、水田理事を表敬訪問しました。

それぞれの機関の紹介を行った後、国際交流課長から九州大学の国際交流事業等について説明がありました。

### フランス ボルドー第三大学副学長

平成二十年十月二十九日(水)、アントワヌ・エトレフランスボルドー第三大学副学長が、水田理事を表敬訪問しました。

ボルドー第三大学と本学は古くから交流を続けておりますが、今、ボルドー第三大学では日本への留学を希望する学生が増えていることから、本学への留学プログラムについて情報収集のため来学されました。言語文化研究院の田中教授を交え、本学のフランス語教育の現状等についても活発な意見交換が行われました。

また、表敬訪問後は、留学生センター教員及びボルドー第三大学からの留学生と懇談を行い、国際交流会館も見学されました。

### インドネシア イスラム大学長

平成二十年十一月四日(火)、コマルツディン ヒダヤト インドネシア イスラム大学長が、水田理事を表敬訪問しました。

イスラム大学からは、医学研究院にインドネシア政府派遣留学生を数名受け入れており、今回はそれらの留学生及び指導教員との意見交換並びに「国立イスラム大学保健・医学部事業」について意見交換を行うためイスラム大学長、宗教省官房長らが来学の折、水田理事を訪れ、学術及び学生交流並びに同事業について懇談しました。表敬訪問後は、医学研究院を訪問されました。



8月

燃料電池を研究 九大の施設視察  
民主党の菅氏ら  
(西日本 8/1)

東アジア研究五十年  
九州大考古学研が論文集  
(朝日 8/1)

九州大研都市推進機構  
誘致対象に自動車関連  
研究開発で知的資源提供  
(日刊工 8/1)

大学研究、事業に活用  
県が生活関連の発表会  
福岡大、九州大などの教授ら十四人  
(西日本 8/2)

本誌科学系サイト「GALLILEO  
N」から 九大総長に聞く  
ものづくり感性を  
(西日本 8/3)

伊都キャンパス探検 子どもら三十  
人、生物観察 九大教員ら催し  
(朝日 8/3)

女性にフレックス制 九大病院が試  
行母と医師、両立を目指す  
(西日本 8/4)

産膜酵母 かき混ぜる合図  
ぬか床の白い膜はカビですか  
園元謙二九州大大学院教授  
(毎日 8/5)

選択肢にUR 九大六本松跡地開発  
業者 来年三月までに選定  
課題は透明・競争性  
(西日本 8/7)

九州大学で水素エネルギーを学ば  
う! 二十三日(土) 福岡市西区元岡  
同大伊都キャンパス  
(朝日 8/7)

北京の水 魚が「審判」福岡発「メ  
ダカセンサー」正興電機と九大開発  
(西日本 8/7)

竹島問題 学術交流にも影  
世界韓国学大会 九大開催を中止  
(毎日 8/7)

三十五年に一度  
アオノリュウゼツラン  
九州大学箱崎キャンパスで開く  
(西日本 8/8)

「プラズマ乱流」九大が初観測  
核融合発電に一役  
伊藤早苗教授らグループ  
(朝日 8/8)

大学院生二割が社会人  
文部科学省調査 八年间で二倍超に  
(西日本 8/8)

現場手探り「人材開国」  
インドネシア人の介護士候補ら来日  
言葉の壁、文化摩擦も念頭に  
(熊本朝日 8/8)

TVが伝える戦争を分析 「被害者  
日本人」際立つ 九州大准教授ら  
(西日本 8/8)

燃料電池車、より安く 九大が基礎  
技術開発 触媒にニッケル使う  
(日経、西日本、毎日、南日本、佐賀、読売、富崎  
日日、日刊工、山口 8/9、12、16、17、25)

祖国の祭典に歓喜 九大留学生  
(読売、朝日 8/9)

九州大学 八日 オープンキャンパス  
(西日本 8/9)

ビール酵母もペプチドが豊富  
松井利郎農学研究院准教授  
(産経 8/10)

日本消化器病学会九州支部・市民公  
開講座 壬生隆一医学研究院教授  
(読売 8/10)

国武豊喜九州大名誉教授 人口細胞  
を実現 大胆仮説で発想転換  
(産経 8/11)

「里海」を守れ 専門家に聞く  
柳哲雄応用力学研究所長  
干潟や藻場の再生を  
(毎日 8/11)

「子育てサロン」や副校長の配置提言  
教育力向上県民会議(梶山千里会長)  
(朝日 8/12)

「第二回KANSEIカフェ」  
経産省・九大などと開催  
ビジネス現場の「感性」意見交換  
(日刊工 8/12)

水の力で動く船作りに挑戦 親子連  
れなどが参加 伊都キャンパス  
(西日本 8/12)

選手飲み水 小魚が番  
北京に「生物センサー」  
福岡の企業開発  
九州大学と共同研究  
(朝日 8/13)

九州好青年科学館  
九州大学芸術工学府・学部の有志で  
結成された好青年科学隊  
(日経 8/13)

れんがアーチ橋の強度実験  
鹿児島県湧水町が設計データ収集  
鹿児島大や九州大の関係者ら  
(朝日 8/13)

鼎談 日本とアジア：上  
高樹のぶ子氏 山内昌之氏 白石隆氏  
(読売 8/14)

関連語でネット検索 九大が開発  
マイニング技術応用  
(日経産 8/14)

ゴルフも糸島も見て  
バスツアー初企画 三十一日、KB  
Cオーガスタ観客ら対象  
(朝日 8/15)

鼎談 日本とアジア：下  
高樹のぶ子氏 山内昌之氏 白石隆氏  
(読売 8/15)

ウミガメ産卵  
過去最多産回 宗像、福津の海岸  
(読売 8/16)

カプトガ二産卵ペア急減  
海水温上昇が影響? 鬼倉徳雄助教  
(西日本 8/16)

「中世・近代博多史論」川添昭二著  
地域史研究の方法論を提供  
(日経 8/16)

教育力向上県民会議(会長・梶山千  
里九州大総長)ビジョン提出  
学校支援態勢など六項目  
(毎日 8/16)

福岡から環境考えよう  
九大など三大学がシンポ  
(読売、西日本、朝日、日刊工 8/16、22、23、  
24、29)

「地球は青いオアシス」宇宙飛行士・  
若田さん 若者にメッセージ  
(西日本 8/17)

中高生向けの薄型テレビ技術紹介講  
座 筑紫キャンパス  
(西日本 8/17)

女性研究者を増やせ  
九大「ソフル」の挑戦  
(西日本 8/17)

二本木遊郭 往時しのぶ 旧日本亭  
初の一般公開 地元住民が保存活動  
(読売、熊本朝日 8/18)

理系学生も経営勉強  
九州大大学院生 具島三佳さん  
(西日本 8/18)

ホール運営の専門知識を伝授  
一般向けに特別講義  
九州大学大学院芸術工学府  
(西日本 8/18)

大学ベンチャー 地方が奮闘  
九州大全国八位  
(朝日、読売、日経、西日本 8/19)

柳田国男 椎葉来訪から百年  
演習林 九州大学が設置  
(夕刊アサヒ 8/20)

環境をテーマに子ども向け催し  
エコバック作り体験  
糸島半島の市民グループ  
(西日本 8/20)

旧制福岡高の歩み振り返る 九大箱  
崎キャンパス 写真や資料展示  
(西日本 8/20)

人工島に「杉岡記念病院」  
医療法人社団杏林会  
理事長 杉岡洋一・前九州大学長  
(西日本 8/20)

アミノ酸全種類 立体構造を自動分  
析 九大が装置、D型・L型区別  
(日経産業 8/20)

シリコンバレー 経済交流拡大を  
福岡に協議会 福岡市や九州大など  
産学官二十六団体  
(西日本 8/21)

「九州衛星」に夢のせて 鹿大など開  
発進む 九州大など九州の三大学も  
協力  
(毎日 8/21)

食の安全 牛レバーの生食、危険伝  
えよ 藤井潤九州大准教授  
(8/22)

福岡のゲーム関係者に聞く  
ライバルと世界見据え  
(西日本 8/22)

デジタルアート企画展 九大院生ら  
が作品三十点展示 福岡アジア美術館  
(西日本、朝日 8/22)

介護士、給与アップ提言  
福岡の団体 人材確保狙い  
(朝日 8/22)

福岡の中高大生 若田宇宙飛行士  
(九大空)に直撃インタビュー  
(西日本 8/23)

戦争と平和を考える起点 九州大学  
筑紫キャンパス 米軍基地の遺構  
(西日本 8/23)

注意 酸化コレステロール  
動脈硬化や脂肪肝 悪化の原因  
(日経 8/24)

水素エネルギー学ぶ 小中学生三十  
三人参加 九州大伊都キャンパス  
(読売、毎日 8/24)

教員汚職を防ぐには  
試験結果を徹底公開せよ 八尾坂教  
授  
(朝日 8/24)

突然変異よぶ「動く遺伝子」  
仁田坂英二助教  
(朝日 8/24)

大分汚職「政倫条例制定を」オンブ  
ズマン 私案提出へ 斉藤文男名譽  
教授  
(読売 8/24)

分析・試作で産学官研究会  
九大学研機構が立ち上げ  
(日刊工 8/26)

福岡のゲーム産業 五年内に連携の  
成果を 知的財産本部の前田真准教  
授  
(西日本 8/26)

味覚、触覚引き出す作品を  
九州大芸術工学部・片山雅史研究室  
(読売 8/26)

エンターテインメントを発信!  
出会いが感動になる街  
監修・佐藤優芸術工学研究教授  
(読売 8/26)

海に浮かぶ工コ発電所 太陽電池と  
風車セット 九大チーム研究  
(読売 8/27)

牛深 サンゴ白化拡大  
野鳥准教授調査 温暖化の影響深刻  
(熊本朝日 8/27)

歯科医療の技術指導  
九大生らの一ふりいでんす福岡  
(西日本 8/27)

地域活性化へICカード 九大と糸  
島一市二町オーガスタゴルフ姿狙え  
(西日本 8/27)

西区に地域交流センター  
九大とも連携図る  
(朝日、西日本 8/27、29)

白血病克服 伝統行事に挑戦  
九大から母校まで完歩 鈴木さん  
(西日本、毎日 8/27、28)  
福岡水素工ネ戦略会議 「高度人材育成」で講義 伊都キャンパス  
(日刊工 8/28)  
熱電変換素子  
n型の変換効率向上 九州大学  
(化学工業日報 8/28)  
詩人・郭沫若留学九十年  
九大で記念学術集会  
(読売 朝日 西日本 8/29、30)  
知人の名かたり九大を爆破予告  
容疑の男を逮捕  
(西日本、毎日 8/29、30)  
福岡―釜山二十四大学「連合」  
来月二十五日 九州大学で調印式  
(西日本 8/29)  
福岡の近代化遺産 九州大旧航空工  
学教室 戦禍越え情熱つなぐ  
(西日本 8/29)  
九州大学  
人材の宝庫、女子アナも輩出  
(毎日 8/29)  
「マル経」復権なるか  
経済理論学会二〇〇八年年度大会  
九州大学箱崎キャンパス  
(朝日 8/29)  
「聞こえムラ」学力に影響?  
九大グループ マイク授業で調査へ  
(西日本 8/29)  
立命館アジア太平洋大学・九州大学  
学生座談会 A〇入試  
(西日本 8/29)  
アミノ酸の結合体「ペプチド」に注  
目! 松井利郎准教授  
(産経 8/29)  
高樹のぶ子さん S-I-A-D-A-Y  
六回目はモンゴル編  
(西日本、毎日 山口、高崎 8/30、31)  
日韓海峡圏学生サミット  
中国と「環境パートナー都市」  
(西日本 8/31)

# 9月

都市と文化 多面的に  
川添昭二九大名誉教授  
「中世・近世博多史論」を刊行  
(西日本 9/1)

行政に頼らず地域おこし  
糸島バスター盛況  
(西日本 9/1)  
学長も「天下り」?  
多くが地域の有力国立大出身  
(朝日 9/1)  
既存施設の地盤強化法開発 九州大  
工学研究院防災地盤工学研究室  
(読売 9/2)  
聞こえ方と学力の関係調査 九大グ  
ループマイク授業 始まる 白石君  
男教授  
(西日本、読売 9/2、20)  
農業の現場で学ぶ 九州大学農学部  
など 留学生が生産農家訪問  
(西日本 9/2)  
やすらぎ荘を支援へ 福岡JCGが街  
頭募金  
(西日本 9/3)  
厳しい残暑 熱中症に要注意 井上  
尚英九州大名誉教授 講演  
(夕刊テリイ 9/3)  
今宿・周船寺に交流センター 九州  
大との連携した活動も予定  
(毎日 9/3)  
地産でエコバッグ第二弾 糸島の環  
境保全グループ販売  
(西日本 9/3)  
九大と九管で海流観測 データ交換  
の覚書 救助や漂流ゴミ 予測活用  
(西日本 9/4)  
L&G資金 一元准教授 権威者  
次々勧誘 九州大生体防衛医学研究  
所教授  
(毎日、朝日 9/4)  
故有地亨・九大名誉教授の遺稿  
「日本の家族」教え子・植木さん  
加筆、出版  
(西日本 9/4)  
博多四季彩スケッチ 九州大学正門  
門衛所 箱崎キャンパス  
(西日本 9/5)  
最高裁判事に桜井龍子氏  
九州大卒 九州大法学部客員教授  
(読売、日経、朝日、熊本 9/5、10、14)  
時評 小説「じわりと感動」 「葉効」  
あり 松本常彦 比較社会文化研究  
院教授  
(読売 9/5)  
劇場の運営方法 第一線招き講義  
九大芸術工学府  
(朝日 9/5)

健康+公園、木製品で手軽に  
森林セラピー 綿貫茂喜九州大教授  
(読売 9/6)  
糖質オフのダイエットパン開発  
高峰和宏 九州大農学部卒  
(読売 9/6)  
「嫌音楽権」の確率を  
新天町の音楽環境設計から  
中村滋延九州大学教授  
(西日本 9/6)  
九大演習林を癒しの森に  
篠栗九大の森 篠栗町と共同整備  
(西日本 9/6)  
地域リーダー 現場で育成へ  
九大グループ 川崎町と連携  
(西日本 9/6)  
環境都市 北九州 バブル絶頂に工  
コ論文 九大院生着想が出发点  
(読売 9/6)  
外国産力プロ・クワガタ 街に続々  
野生化懸念 荒谷邦雄准教授  
(朝日 9/6)  
「水素発電」家計潤すか 実証実験  
前原市 九州大学との連携を強みに  
(朝日 9/7)  
温暖化分かりやすく考える  
福大でシンポ 紙合聡志准教授  
九州大農学研究科  
(読売 9/8)  
米づくり 農家に聞く  
糸島学術研究都市推進協が主催  
(西日本 9/8)  
バンコクで学生討論会  
九大とタイのビジネススクール  
(西日本 9/8)  
食育で生活改善  
手作り「弁当の日」 佐藤剛史助教  
(朝日 9/8)  
こども病院東へ「感染症」分離  
採算の壁 巨額整備費に九大慎重  
(日刊工 9/9)  
九大発VB ネット情報分析サービ  
ステキストマイニング利用  
(朝日 9/9)  
石炭の効率向上へ研究会 九大や経  
産局など 産学官で技術開発  
(日経、読売、西日本 9/9、10)  
九大「男性合唱団コルアカデミー」  
東京公演へ熱い練習  
(西日本 9/12)

国際交流 農業が一役  
学生らと留学生が汗  
(朝日 9/12)  
九州大学発ベンチャー  
ハラテックインターナショナル  
納豆樹脂使い化粧品の開発  
(日刊工 9/12)  
後輩へ学生へ 贈る言葉  
梶山・九大総長が最終講義  
(朝日、西日本 9/13)  
マイバツク教室 いとエコプロジェクト  
佐藤剛史研究室  
(読売 9/13)  
今後合併必要? 六十五%  
九州市町村長アンケート  
九州大、西日本新聞社  
(西日本 9/13)  
患者が治療法を選ぶ時代に  
市民公開講座 九大病院  
谷憲三朗氏 坂本節子氏  
(西日本 9/14)  
無実を信じて 心の叫びは生き続け  
る 九大大学院生 大場史朗さん  
(朝日 9/14)  
なんじょうと 福博ブラリぶら  
九大医学部却下の郭通り  
(西日本 9/14)  
九大の酔・腎移植手術終わる  
(西日本 9/15)  
気になる話題Q&A ゲリラ豪雨  
発達した積乱雲が原因に  
(西日本 9/15)  
わが道わが友  
アサヒビル会長 池田弘一氏  
故郷・九州で営業マン人生スタート  
(産経 9/16)  
彗星のちりに小惑星と同成分  
太陽系解明の手掛かりに  
中村智樹准教授  
(日刊工、毎日、日刊工、西日本 9/19、28)  
「広域経済人」育成 福岡と連携  
釜山・東西大学 大学院設立へ  
実利的研究に特化 九大も支援  
(西日本 9/19)  
水素から電子 新技術開発  
小江誠司教授  
(科学新聞 9/19)  
九大初の女性火山学者  
河野裕希さん「噴火予知研究したい」  
(毎日 9/20)  
二丈赤米きれい「花見」にぎわう  
やぐらに上り巨大絵文字  
(読売 9/20)

公的機関の職員対象  
QBSが入学説明会  
(西日本 9/20)  
福工大・九大・福女大・西南大  
共同研究へ連携協定  
来春から単位互換も  
(西日本、毎日、朝日 9/20、23)  
北大と九大、東京で合同セミナー  
(読売 9/17、21)  
ミシエルの憑依  
ミシエルのド・セルトール著  
神は言葉を奪われた  
森茂太郎九州大教授  
(西日本 9/21)  
こども病院移転 みんなで一考を  
九大院生が写真展  
(西日本 9/22)  
太陽がらんりスク減  
カルシウム+ビタミンD 九大調査  
(朝日 9/22)  
韓国釜山と大学間交流協定  
福岡―釜山大学間コンソーシアム  
白刊工、西日本 9/23、26)  
九大跡地URに売却  
六本松六・五ヘクタールを一括で  
(毎日、日経、読売、朝日、西日本 9/25、26)  
九大美術部五十年作品展  
油彩 オフジエなど三十点  
(西日本 9/27)  
注意欠陥多動性障害  
ADHDの発症 妊婦喫煙影響か  
九大院グループ調査、発表へ  
(西日本 9/28)  
ひと 国交省運輸安全委員会の初代  
委員長 後藤昇弘さん 九州大学教  
授時代  
(朝日 9/30)  
研究室を歩く 重力分布で月の起源  
解明へ 九州大理学部地球惑星科学  
科 並木則行助教  
(読売 9/30)  
小児用遺棺を発見 九大考古学教  
室発掘調査 吉岐・カラカミ遺跡  
(長崎 9/30)  
「行政書士制度広報月間」  
特別企画 ニースの高まり実感  
市民の安心支えたい  
梅林真五・福岡県行政書士会会長と  
斎藤文男・九州大学名誉教授  
(西日本 9/30)

# 健康と運動の疫学入門

エビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開

責任編集：熊谷秋三（九州大学健康科学センター教授）

発行：医学出版（2008年9月刊、5,229円）

こんな本  
出しました

## 著者から一言

現代社会は、人類が構築した便利で効率的な社会環境の獲得により、皮肉にも身体活動や運動不足に起因した疾病や障害に遭遇しています。このような状況にあつて、疫学的な証拠に基づく健康支援の展開に大きな期待が寄せられています。本書の目的は、運動疫学研究で解明された運動行動と健康事象との関連性や課題を健康支援（支援理論、対人支援、政策支援）の観点から記述することにあります。本書では、まず健康・運動の疫学の基礎を学び、次に運動行動と疾病との関連性を疫学的視点から要約しました。また、その背景について、運動生理・生化学、遺伝および行動科学の観点から解説を加えました。本書が、運動による健康支援の展開に向けた科学的拠り所として使っていただけなら、執筆者にとつて望外の喜びであります。



## 編集後記

九大広報では、情報記録や発信と九大人の紹介が一貫して行われ、他大学に類を見ないPR誌として高い評価を受けてきました。この間、九大広報立ち上げの当初からおよそ十年に渡つてその育成に努力してこられた柴田前副学長を始め、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ところで、今九大が懸念していることのひとつは、かつてのように九大の名前が通用しにくくなっていることです。これまでの九大広報の実績を踏まえつつ、皆様とともに教育・研究やオピニオン機関として外部に対してアピールできる広報に努めたいと思います。

広報担当理事 今泉 勝己

十月から広報室長を拝命しました。着任後、「シリーズ九大人インタビュー」や各種取材への対応などで慌しく時が過ぎ、その短い間にも、これまでいかに自分が九州大学のことを知らなかったかを痛感させられました。これからもフットワークを軽くして、新総長のもと、更なる飛躍に向けて頑張る九州大学の姿を「広く、わかりやすく内外に伝える」ことをモットーに、日々努力していきたいと思えます。

今号の「シリーズ九大人インタビュー」では、有川新総長にご登壇いただきました。インタビューにありますとおり、有川総長は、一見クールですが、これからの九大を語られる姿に、内に秘めた情熱と「九大愛」をひしひしと感じました。

次号では、六本松キャンパス特集号といたします。六本松キャンパスは、多くの九大人にとって、その人生で最も多感な時期を過ごした特別な場所です。六本松キャンパスに感謝を込めて、懐かしさを目一杯詰め込んでお届けしますのでご期待ください。

広報室長 福島 泰

## 九大の最新情報は

### 「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は一年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいただけますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局  
TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113  
E-Mail sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp

## 「お詫びと訂正」

九大広報第五十九号の四頁、三段目の「土井校長先生」とあるのは、正しくは「土井良校長先生」の誤りでした。お詫びして訂正させていただきます。

大宝  
九至

表紙  
写真説明



## 九州大学筑紫地区出土 弥生時代中期土器

九州大学埋蔵文化財調査室蔵

九州大学では、昭和五十三年から平成十年にかけて諸施設の建設にとまない、筑紫地区内における埋蔵文化財発掘調査を実施した。発掘調査では、大量の資料が出土し、多大な成果を挙げたが、これらの資料がこれまで十分に公開活用されることはなかった。現在では、これらの資料の学術資料化を目指して、新たな体制のもと研究を推進している。今回表紙に掲載した土器は、弥生時代中期（約二〇〇〇年前）の土器である。筑紫地区の正門近くの地下から出土した弥生時代当時の集落と墓を分ける境界付近に、大量の日常土器と赤く彩色された祭祀用土器が廃棄されていた。二〇〇〇年前の人々の日常生活を想像しながら、これらの土器を見ていただきたい。なお、二〇〇九年一月一日より九州国立博物館において、「奴国の南―九大筑紫地区の埋蔵文化財―」を開催する。埋蔵文化財調査室蔵品を中心に出品展示するので、是非ご覧下さい。

（埋蔵文化財調査室 学術研究員 田尻義了）

九州大学総合研究博物館  
平成二十年度公開展示

# 奴国の南

―九州大学筑紫地区の埋蔵文化財―

期間：平成二十一年一月一日（木）～二月八日（日）  
場所：九州国立博物館 四階文化交流展示室  
開館：九時三十分～十七時（入館は十六時三十分まで）  
休館日：月曜日（月曜日が祝日・振替休日の場合は翌日）  
観覧料：大人四二〇円、高校生・大学生一三〇円

お問い合わせ 九州大学総合研究博物館事務局 〇九二（六四二）四二五二 <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp/>



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

